

建学の精神特論

(学長 福井 一光)

<単位数> 1単位

<開講学科> 大学院児童学研究科児童学専攻

<開講学年> 1年

<開講学期> 春semester

<授業概要>

私学に学ぶ最も重要な意味は、創設者が如何なる人づくりを願ってその学園を創設し、そこに学ぶ学生諸君に何を期待し続けたのかという固有の想いを理解することにある。この授業は、学祖・松本生太先生によって指し示された鎌倉女子大学の教育の精神を、その理念・目的・方法・姿勢・体系にわたり、総合的に論じることを計画している。

<到達目標>

本学の教育の精神は、本学のオリジナリティーに根差したものではあるが、しかし独り本学のみに限定された特殊妥当的な教育の精神であるわけではない。それは、古今東西の教育の精神の本質をそのまま反映したものであり、従って本学の教育の精神を論じるとは、自ずとプラトンからウェーバーまでの西欧の教育観の本質や、現代思想の先駆をなすキルケゴールやニーチェ以来の時代認識、あるいは日本古来の人間観、孔子や最澄を初めとする東洋の倫理観・宗教観等々を参照することにもなる。結果として、受講者は、この特論を通じて自ずと教育に関わる広範な思想史を鳥瞰することにもなる。

この授業を通じて、各自が人間としてのジェネリックな識見と強靱な思索力を涵養していくことを目標とする。

<授業内容・方法>

学祖の残された言葉を手掛かりに、これを常に古今東西の教育思想と関連づけながら、授業を展開していく。講読とディスカッションを通じて、以下7回の授業を進めていく。

- 第1週 創設者と歴史：学祖の生涯と鎌倉女子大学の歴史
- 第2週 教育の理念：感謝と奉仕に生きる人づくり
- 第3週 教育の目標：科学的教養の向上と優雅な性情の涵養
- 第4週 教育の姿勢：人・物・時を大切に
- 第5週 教育の方法：ぞうきんと辞書をもって学ぶ
- 第6週 教育の体系：徳育・知育・体育の三位一体の調和
- 第7週 総括と残された問題

<準備・発展学習>

準備学習としては、a. シラバスに記載されている各回のテーマと対応する教科書の章節を予め読んでおくこと、b. 教科書に記載されている人物・思想・学説・事柄などについて予め調べ、授業中問われた場合、一定程度答えることが出来るようにしておくこと。復習としては、a. 授業中扱われた教科書のページ及びノートを読み返すこと、b. ノートに自分の感想・解釈を記入すること、c. 授業内容について同じクラスの友人とディスカッションをしてみることに、d. 授業中扱われた人物・思想・学説・事柄などについて更に調べ、次回に説明乃至発表できるようにしておくこと。

<成績評価>

- a. 毎回の出席、b. 授業中の質疑応答、c. 試験乃至リポートの内容。

<教科書>

福井一光著『知と心の教育 ―鎌倉女子大学「建学の精神」の話』（北樹出版）

科目名	児童研究総合基礎
単位数	2単位
担当教員	米山弘・小国美也子・佐藤淑子・飯村敦子・木下博勝・小泉裕子・杉本裕子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	本講義では、「児童学研究科」が目的とする児童の心身の健全育成に密接な学問諸領域を、教育・心理・社会（福祉）・表現文化の各学問分野とし、各々最も興味のある最先端の研究を、分かり易く紹介・講義するものである。それによって児童学への関心と理解を深めるにある。
到達目標	「児童学研究」を構成する各学問分野を理解し、児童学の構成の意味を理解できるようになることである。
授業内容・方法	<p>第1週 本講義の主旨と講義計画について（米山）</p> <p>第2週 児童学の性格とその存在意義</p> <p>第3週 児童学の歴史と今日</p> <p>第4週 児童学と子どもの心理（小国）</p> <p>第5週 児童学と子どもの心理</p> <p>第6週 イギリスの児童研究（佐藤）</p> <p>第7週 児童の知的発達と学校教育</p> <p>第8週 児童学と子どもの福祉（小泉）</p> <p>第9週 児童と幼小連携</p> <p>第10週 児童学と子どもの健康管理（木下）</p> <p>第11週 栄養と子どもの保険</p> <p>第12週 子どもの創作・表現（杉本）</p> <p>第13週 児童学と表現文化</p> <p>第14週 発達障害の子どもの捉え方（飯村）</p> <p>第15週 発達障害の臨床と支援</p> <p>定期試験等 各担当毎に課題提示をする。</p>
準備・発展学習	各担当が適切に、前回は復習し、次回の授業の文献等を提示する。
成績評価	成果は各担当が、結果を成績取りまとめ役の研究科長に知らせる。
教科書	各担当に一任する。
備考	

科目名	児童学特別講義
単位数	1単位
担当教員	米山弘
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	その他
免許・資格課程との対応	
授業概要	本講義は、児童学及び児童学関連の各科学分野の著名な研究者・講演者を招き、こうわを聴講することによって、受講生の研究活動に役立つようにするものである。
到達目標	講話の聴講によって、児童研究を幅広く理解し、自己の研究に役立つようにする。
授業内容・方法	この講義は15回行うものではない。 *著名な研究者・講演者の講話の聴講を、その都度、院生に通知する。
準備・発展学習	
成績評価	講演・講話の聴講の結果を、感想文レポートにして提出する。(提出日、枚数等は掲示する)
教科書	
備考	

科目名	児童学総合研究特論
単位数	2単位
担当教員	佐藤淑子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	本研究特論は、児童の健全育成に関する研究を総合的に展望し、少子化、情報化、グローバル化などにより大きく変化した児童を取り巻く環境の中で、新しい時代に生きる力の育成について検討する
到達目標	1. 児童の健全育成に関する総合研究とは何かを理解する。2. 今日の児童研究の課題は何かを捉える。
授業内容・方法	<p>第1週 児童学とは何か【講義】</p> <p>第2週 教育学の学問分野の視座【講義】</p> <p>第3週 児童福祉の学問分野の視座【講義】</p> <p>第4週 心理学の学問分野の視座【講義】</p> <p>第5週 子どもの健康とは【講義】</p> <p>第6週 表現文化の視座【講義と討論】</p> <p>第7週 生活世界の変貌と教育【講読と討論】:小レポート課題の提示</p> <p>第8週 子どもという価値【講義と討論】</p> <p>第9週 子ども観の社会史:イギリスにおける変遷【講義と討論】</p> <p>第10週 イギリスの幼児教育【講読と討論】</p> <p>第11週 日本の幼児保育【講読と討論】</p> <p>第12週 日本の児童教育【講義と討論】</p> <p>第13週 自己肯定感を育てる教育【講義と討論】</p> <p>第14週 子どもが育つ条件【講義と討論】</p> <p>第15週 本講のまとめとレポート課題の提出</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	プリントを読み、予習をすることに加え、問題意識を持ち、関連文献を読むこと。
成績評価	授業態度30%、レポート提出70%（小レポートと期末レポート）
教科書	プリントを適宜、配布する。
備考	討論に積極的に参加し、対話を通して学ぶ態度を身につける。

科目名	児童学総合研究方法論
単位数	2単位
担当教員	佐藤淑子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	児童学は教育・福祉・心理・保健・表現文化の包括的な学問であり、その研究方法を文献講読を通して検討し、考察する。
到達目標	1. 児童学の研究論文を読む力を習得する。2. 児童の生活世界をトータルに捉えることを学ぶ。
授業内容・方法	<p>第1週 児童学とは何か【講義】</p> <p>第2週 教育学文献講読（1）【講読と討論】</p> <p>第3週 教育学文献講読（2）【講読と討論】</p> <p>第4週 心理学文献講読（1）【講読と討論】</p> <p>第5週 心理学文献講読（2）【講読と討論】</p> <p>第6週 福祉分野の文献講読【講読と討論】</p> <p>第7週 健康分野の文献講読：現代の子どもの身体的発達【講読と討論】</p> <p>第8週 三つの文化の保育所①【DVD視聴と討論】</p> <p>第9週 原著で読む社会性の発達（1）【解説とレポート課題の提示】</p> <p>第10週 原著で読む社会性の発達（2）【講義と討論】</p> <p>第11週 文化的自己観：三つのモデル【講義と討論】</p> <p>第12週 三つの文化の保育所②：文化間比較と文化内比較【DVD視聴と討論】</p> <p>第13週 グローバル化・情報化と子どもの発達【講義と討論】</p> <p>第14週 Child Development の文献を読む【解説と演習】</p> <p>第15週 オランダモデルと子育て【講義と討論】</p> <p>定期試験等 本稿のまとめ【レポート課題提出】</p>
準備・発展学習	プリントを読み、予習をすることに加え、問題意識を持ち、関連文献を読むこと。
成績評価	授業態度30%、レポート提出70%
教科書	プリントを適宜、配布する
備考	討論に積極的に参加し、対話を通して学ぶ態度を身につける。

科目名	教職特論
単位数	2単位
担当教員	米山弘
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修
授業概要	「教育の結論は教師であります」と言われる。そう言われる理由を押さえておきたい。教師の職業は、世の企業の生産活動とは違う。従って教師の教育活動を検討し、教職活動が如何に重要かその意義を検討する。ところが今日、教師の問題が様々である。その問題を捉え、教育法規との関係も検討したい。結局「教師に人を得る」事の重要性を確認する。
到達目標	①教職の重要性を確認する。②偉大なる教師の偉大性を理解する。③今日の教職を把握する。
授業内容・方法	<p>第1週 教職とは何か</p> <p>第2週 今日の教師と教職について</p> <p>第3週 教職の条件と適性について</p> <p>第4週 児童を生かす学習指導と学級経営</p> <p>第5週 教育に生きた人間教師たち</p> <p>第6週 教師ソクラテスと国際平和主義のコメニウスについて</p> <p>第7週 教聖パスタロッチ-と幼稚園創設のフレーベルについて</p> <p>第8週 日本の教師たち（明治時代まで）</p> <p>第9週 日本の教師たち（昭和時代まで）</p> <p>第10週 人権と同和教育の理念と現実</p> <p>第11週 特別支援学校の教師（日本とドイツ）</p> <p>第12週 特別支援学校の教師（日本とドイツ）</p> <p>第13週 教職と危機管理（大震災の教訓から）</p> <p>第14週 教育の三位一体の意味</p> <p>第15週 教職と人生</p> <p>定期試験等 レポート提出とする。</p>
準備・発展学習	毎回、前回の講義の確認と次回の予告と参考文献の提示をする。
成績評価	学期末レポート 50%、 調査報告会 30%、ノート提出20%
教科書	使用せず、適宜プリント配布。
備考	

科目名	幼児教育学特論
単位数	2単位
担当教員	稲川英嗣
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修
授業概要	幼児教育に関わる古典、基本文献を講読することで、幼児教育に対する考え方をより深めるようにする。文献に書かれている内容を具体的な場面とを関連させて議論できればと考えている。
到達目標	1. 幼児教育についての思想を概観し、整理することができる。 2. 文献で述べられている思想内容を整理し、幼児教育の具体的な状況と結びつけて考えることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 幼児教育とは【講義】</p> <p>第2週 古代・中世の教育思想【講義】</p> <p>第3週 古代・中世の子ども観・教育観【講読】</p> <p>第4週 近世の教育思想【講義】</p> <p>第5週 体系的教育思想の萌芽【講読】</p> <p>第6週 教育と直観に関して【講読】</p> <p>第7週 「子ども」の発見と教育学【講読】</p> <p>第8週 子どもの固有性について【講読】</p> <p>第9週 幼児教育の方法について【講読】</p> <p>第10週 子どもと教材について【講読】</p> <p>第11週 新教育運動について【講義】</p> <p>第12週 アメリカの新教育運動【講読】</p> <p>第13週 ヨーロッパの新教育運動【講読】</p> <p>第14週 日本の新教育運動【講読】</p> <p>第15週 幼児教育の現代的課題【講義】</p> <p>定期試験等 なし</p>
準備・発展学習	事前に配布した文献は、担当部分でなくともしっかり読んでおくこと。
成績評価	提出物 30%、発表・実践 40%、受講状況 30%
教科書	「西洋教育史」山崎英則・徳本達夫編著、ミネルヴァ書房、1994
備考	

科目名	小児保健学特論
単位数	2単位
担当教員	木下博勝
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修
授業概要	いわゆるゼミナール形式（毎回のテーマについて担当者がPC等で発表し、参加者全員で質疑応答等）で行う。
到達目標	1. 子供たちの生命力を発揮させ、可能性を伸ばす為に我々が取り組むべき事項や課題を具体的に述べる。2. 問題点やその解決方法を考え、論理的 実践的に関連付け説明する。
授業内容・方法	<p>第1週 総論（講義）</p> <p>第2週 家庭、地域との関連（発表、討論）</p> <p>第3週 臓器と機能発達（発表、討論）</p> <p>第4週 生理機能発達（発表、討論）</p> <p>第5週 小児各時期の健康づくり（発表、討論）</p> <p>第6週 救急処置（発表、討論）</p> <p>第7週 感染症とその予防（発表、討論）</p> <p>第8週 小児期の疾病（発表、討論）</p> <p>第9週 養育上の問題（発表、討論）</p> <p>第10週 疾病異常とその支援（発表、討論）</p> <p>第11週 事故と安全対策（発表、討論）</p> <p>第12週 児童福祉施設（発表、討論）</p> <p>第13週 児童虐待（発表、討論）</p> <p>第14週 母子保健（発表、討論）</p> <p>第15週 総合討論（発表、討論）</p> <p>定期試験等 実施しない。</p>
準備・発展学習	授業内容に則した成書や文献を、図書館等で予め各自で調べ通読しておくことが望ましい。
成績評価	受講状況10%、課題提出物10%、発表80%
教科書	教科書は指定しない。
備考	60分程度の発表と、30分程度の質疑応答を予定。

科目名	表現文化研究特論
単位数	2単位
担当教員	梨本加菜
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修
授業概要	子どもの表現文化とは何か。国内外の歴史や多様なリソースを探りながら基礎事項の理解を深めるとともに、自らの研究の視座を獲得する。具体的には(1)表現文化の構成、(2)表現文化の歴史、(3)表現文化を支える場と活動 を扱う。講義の他、受講者と相談してレポート作成・発表、施設見学を行う。
到達目標	①表現文化の構成、歴史、場と活動を関連づけて検証できる。 ②研究の対象として表現文化をとらえ、任意の文化資料・施設・活動の特性や表現の方法を自ら調べ、説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス：表現文化とは何か【講義・コメント用紙作成】</p> <p>第2週 表現文化の構成（1）：子どもと表現文化【講義】</p> <p>第3週 表現文化の構成（2）：子どもの表現文化研究【講義・演示】</p> <p>第4週 表現文化の構成（3）：現代文化と子ども【講読・討議】</p> <p>第5週 表現文化の歴史（1）：玩具など【見学・小レポート】</p> <p>第6週 表現文化の歴史（2）：絵本など【講読・討議】</p> <p>第7週 表現文化の歴史（3）：大正自由教育と表現文化【講義・演示】</p> <p>第8週 表現文化の歴史（4）：大正期の児童文化【実演・ビデオ視聴】</p> <p>第9週 表現文化の歴史（5）：映像文化と子ども【ビデオ視聴・小レポート】</p> <p>第10週 表現文化の歴史（6）：「人形」の変遷【講義・事例検討】</p> <p>第11週 表現文化の場と活動（1）：子どものための文化施設【見学・小レポート】</p> <p>第12週 表現文化の場と活動（2）：文化施設と子ども【資料収集・事例検討】</p> <p>第13週 表現文化の場と活動（3）：お稽古ごと・子ども会【資料収集・事例検討】</p> <p>第14週 表現文化研究の課題（1）：メディアと子ども【発表・討議】</p> <p>第15週 表現文化研究の課題（2）：活動の支援【発表・討議】</p> <p>定期試験等 定期試験実施せず</p>
準備・発展学習	各講義に向けてテキストに加え参考文献、資料の講読を課す。
成績評価	受講状況20%、課題（レポート等）80%
教科書	『おもちゃコンサルタント入門2』多田千尋編著、黎明書房
備考	施設見学の入館料、交通費等は自己負担となる。表現文化に日頃から関心をもち、資料収集や考察に努め、「楽しさ」にこだわって理解を深めてほしい。

科目名	子ども心理学研究特論
単位数	2単位
担当教員	廣田昭久
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○臨床発達心理士受験
授業概要	科学の本質とその方法論を理解し、科学としての心理学を理解する。特に、情動と認知を中心に、その発達、機能、生理学的基礎である脳との関わり、計測及び評価の方法等について、講義・演習を通して学習する。また、実験演習を通して具体的な研究方法を習得する。
到達目標	1 科学としての心理学を理解し、その研究方法論を習得する。 2 情動の発達、機能、個人差・文化差を理解し、その計測及び評価の方法を習得する。 3 認知を多面的に捉え、脳とその発達との関連について理解する。
授業内容・方法	<p>第1週 科学の本質</p> <p>第2週 科学における統計の意義</p> <p>第3週 観察と実験</p> <p>第4週 単一事例研究法1</p> <p>第5週 単一事例研究法2</p> <p>第6週 情動とその社会性</p> <p>第7週 情動とその発達における個人差・文化差</p> <p>第8週 情動の計測と評価1</p> <p>第9週 情動の計測と評価2</p> <p>第10週 認知能力の多面的理解</p> <p>第11週 認知能力の生理学的基礎：脳との関係</p> <p>第12週 認知と脳の発達</p> <p>第13週 実験演習1</p> <p>第14週 実験演習2</p> <p>第15週 データ解析演習</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	テーマを定めて関連する資料等をまとめ発表し、討議を行う。
成績評価	発表・討議60%、受講状況40%
教科書	教科書は指定せず、授業の中で資料の配布や参考図書の紹介を行う。
備考	この授業はDP科目「認知」の1-2、1-4、1-6と、「社会情動」の1-2、1-3、2-1、2-5を含む。

科目名	子ども心理学研究方法論
単位数	2単位
担当教員	廣田昭久・伊藤嘉奈子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	子どもを対象とする心理学研究の方法論を理解するために、科学の一般的な方法、実験計画法、データの収集と統計的解析法、いくつかの基本的な研究方法（質問紙法、面接法等）について概説する。また、心理学研究に関わる者の倫理について解説する。
到達目標	1 科学としての心理学の方法とその特徴について理解し、活用できる。 2 修士論文研究で具体的な研究計画を立て、データを収集し、分析をし、結果をまとめることができるよう、各自の研究方法論の基盤を作れる。
授業内容・方法	<p>第1週 研究の信頼性と妥当性</p> <p>第2週 記述統計と推測統計</p> <p>第3週 実験計画法1</p> <p>第4週 実験計画法2</p> <p>第5週 質問紙作成法1</p> <p>第6週 質問紙作成法2</p> <p>第7週 質問紙分析法1</p> <p>第8週 質問紙分析法2</p> <p>第9週 質的研究の理論と技法</p> <p>第10週 質的研究の意義</p> <p>第11週 面接法の理論と技法</p> <p>第12週 面接法によるデータの収集と分析法</p> <p>第13週 観察法の理論と技法</p> <p>第14週 観察法によるデータの収集と分析法</p> <p>第15週 研究者倫理</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	学んだことの復習と実際の研究への適用等を検討する目的から、授業内で適宜関連事項について討議を行う。
成績評価	担当教員ごとに①受講状況、②課題提出（①と②を合わせて50%）を評価し、2人の評価を合計して総合評価を行う。
教科書	教科書は指定せず、授業中に参考図書等について紹介する。
備考	廣田と伊藤とのオムニバス講義。

科目名	発達心理学特論
単位数	2単位
担当教員	越智幸一
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修, ○学校心理士受験, ○臨床発達心理士受験
授業概要	本講義では、乳幼児期から青年期までの乳児、幼児、児童、青年を対象とした発達に関する研究論文を取り上げ、「学校教育の基盤としての発達心理学」、「認知・思考の発達」、「自己意識の発達」、「社会性の発達」、「言語の発達」についての理解を深める。
到達目標	1. 幼児期・児童期の子どもの発達をさまざまな視点から捉えて理解できる。2. 幼児期・児童期の子どもの発達を踏まえ、青年期の子どもの発達を捉えることができる。3. 生涯発達心理学の視点から、乳幼児期から青年期までの子どもの発達を理解できる。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、発達心理学とは【講義】</p> <p>第2週 幼児教育の基盤としての発達心理学と発達支援の実態【講義・DVD教材】</p> <p>第3週 学校教育の基盤としての発達心理学とそれぞれの事例の臨床的意味【講義】</p> <p>第4週 認知・思考の発達（1）【講義】</p> <p>第5週 認知・思考の発達（2）【講義】</p> <p>第6週 自己意識の発達（1）【講義】</p> <p>第7週 自己意識の発達（2）【講義】</p> <p>第8週 社会性の発達（1）【講義】</p> <p>第9週 社会性の発達（2）【講義】</p> <p>第10週 言語の発達（1）【講義】</p> <p>第11週 言語の発達（2）【講義】</p> <p>第12週 発達心理学における研究法（1）【講義】</p> <p>第13週 発達心理学における研究法（2）【講義】</p> <p>第14週 生涯発達における子どもを取り巻く環境（1）【講義】</p> <p>第15週 生涯発達における子どもを取り巻く環境（2）【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に研究論文をよく読み、分からない専門用語は辞書等で意味を調べておくこと。
成績評価	課題提出 80% 受講態度 20%
教科書	教科書は指定せず、授業中に研究論文等の資料を配付する。
備考	この授業はDP科目「基礎」の1-1～1-4、及び「認知」の1-1～1-4を含む。

科目名	子ども臨床心理学特論
単位数	2単位
担当教員	伊藤嘉奈子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○学校心理士受験, ○臨床発達心理士受験
授業概要	乳幼児期から青年期における心と行動の問題に対する心理援助についての様々な理論と実践的な援助方法およびアセスメントの方法を学び、技法を習得する。さらに、最近の研究動向を概観し、子どもを対象とした臨床心理学の研究について学ぶ。
到達目標	①胎児期から青年期に見られる様々な心理的な問題と課題について説明できる ②実践的な援助方法およびアセスメントの技法を習得できる ③臨床心理学に関する研究論文が理解でき、まとめることができる
授業内容・方法	<p>第1週 子ども臨床心理学とは【講義】</p> <p>第2週 学校教育の基盤としての臨床心理学のあり方【講義・ディスカッション】</p> <p>第3週 臨床心理アセスメント①：心と行動の問題の把握の仕方【講義・演習】</p> <p>第4週 臨床心理アセスメント②：診断分類システム【講義・演習】</p> <p>第5週 臨床心理学的アプローチ①：精神分析学パラダイム【発表】</p> <p>第6週 臨床心理学的アプローチ②：人間学パラダイム（来談者中心療法など）【発表】</p> <p>第7週 臨床心理学的アプローチ③：行動理論・学習理論・認知理論パラダイム【発表】</p> <p>第8週 臨床心理学的アプローチ④：システム論パラダイム【発表】</p> <p>第9週 胎児期から乳児期に見られる問題と対応(情緒との関係の障害、虐待など)【事例検討】</p> <p>第10週 幼児期に見られる問題と対応（集団適応、自己と関係の障害など）【事例検討】</p> <p>第11週 児童期に見られる問題と対応（不登校、いじめ、自己との関係の障害など）【事例検討】</p> <p>第12週 思春期に見られる問題と対応（思春期特有の問題、非行など）【事例検討】</p> <p>第13週 青年期に見られる問題と対応（同一性の発達と関係性の障害など）【事例検討】</p> <p>第14週 心理臨床等の専門家と専門機関【講義】</p> <p>第15週 臨床心理学の活動に関わる法律と研究者倫理【講義・ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は行わない</p>
準備・発展学習	事前に論文を配布するので、よく読み把握しておくこと。授業終了時に提示する復習課題を、指定期限までに提出すること。
成績評価	発表・実践50%、課題提出50%
教科書	教科書なし
備考	この授業はDP科目「社会情動」の1-4～1-7を含む。

科目名	子ども心理療法特論
単位数	2単位
担当教員	青木万里
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修
授業概要	心理療法の基礎知識および技法の習得を目標に、文献購読、事例検討およびディスカッションを通して学ぶ。
到達目標	1. 子どもを対象とした心理療法の基礎知識を身につける。 2. 事例検討を通して子どもの心を理解し、必要な支援を考えることができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 心理療法とは【ふりかえりと講義】</p> <p>第2週 心理療法の理論(1) 精神分析【講義】</p> <p>第3週 心理療法の理論(2) 来談者中心療法【講義】</p> <p>第4週 心理療法の理論(3) 行動療法【講義】</p> <p>第5週 子どもを対象とした心理療法の理論(1) 遊びを通して【講義】</p> <p>第6週 子どもを対象とした心理療法の理論(2) 言葉にならない世界【講義】</p> <p>第7週 子どもを対象とした心理療法の理論(3) 内面に目を向けて【講義】</p> <p>第8週 子どもを対象とした心理療法の体験(1)【講義・体験】</p> <p>第9週 子どもを対象とした心理療法の体験(2)【講義・体験】</p> <p>第10週 子ども心の問題の現れ方【講義・DVD教材】</p> <p>第11週 発達段階に応じた心の問題(1)【事例検討・ディスカッション】</p> <p>第12週 発達段階に応じた心の問題(2)【事例検討・ディスカッション】</p> <p>第13週 発達段階に応じた心の問題(3)【事例検討・ディスカッション】</p> <p>第14週 発達段階に応じた心の問題(4)【事例検討・ディスカッション】</p> <p>第15週 心理療法における治療者-クライアントの交流【講義・ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	授業に意欲的に取り組み、自ら関心のあるテーマについて調べる。
成績評価	発表60%、受講状況40%
教科書	『やさしく学べる心理療法の実践』窪内節子編著、培風館
備考	心理療法の基礎知識があることが望ましい。初回に受講方法について説明する。

科目名	子ども発達教育臨床Ⅰ（ムーブメントアセスメント）
単位数	2単位
担当教員	飯村敦子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ◎ムーブメント上級指導者
授業概要	この科目では、子どもの実態を把握して、その支援における個別の指導計画等に活用することのできるムーブメント教育・療法プログラムアセスメント（MEPA-R）、ムーブメントスキルテストバッテリー（MSTB）、身体協応テスト（BCT）を学び、ムーブメント教育・療法による支援計画作成の実際を理解する。
到達目標	1. 子どもの感覚運動、言語、社会性の発達プロセスに基づく支援能力を習得する。 2. 支援目標の設定、プログラムの実施、評価ができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 ムーブメント教育・療法による支援とは（講義）</p> <p>第2週 アセスメント（MEPA-R）の概要（講義）</p> <p>第3週 演習1：MEPA-Rによる評定①（0～12ヶ月）</p> <p>第4週 演習2：MEPA-Rによる評定②（13～18ヶ月）</p> <p>第5週 演習3：MEPA-Rによる評定③（19～36ヶ月）</p> <p>第6週 演習4：MEPA-Rによる評定④（19～36ヶ月）</p> <p>第7週 演習5：MEPA-Rによる評定⑤（37～48ヶ月）</p> <p>第8週 演習6：MEPA-Rによる評定⑥（37～48ヶ月）</p> <p>第9週 演習7：MEPA-Rによる評定⑦（49～60ヶ月）</p> <p>第10週 演習8：MEPA-Rによる評定⑧（49～60ヶ月）</p> <p>第11週 演習9：MEPA-Rによる評定⑨（61～72ヶ月）</p> <p>第12週 ムーブメントスキルテストバッテリーの概要（映像による演習を含む）</p> <p>第13週 身体協応性テストの概要（映像による演習を含む）</p> <p>第14週 アセスメントにもとづく支援の考え方（ディスカッション）</p> <p>第15週 アセスメントに基づく支援プログラムの作成（グループワーク）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	各回、教科書の該当箇所を読んでおく。 演習の内容をまとめレポートを提出する。
成績評価	課題提出 50%、受講状況 30%、実技 20%
教科書	発達支援ステップガイド：小林芳文編著（日本文化科学社）
備考	

科目名	言語発達の基礎
単位数	2単位
担当教員	作間祐子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○臨床発達心理士受験
授業概要	様々な発達臨床（健診、子育て支援、保育、教育、療育）において具体的な支援を行うためには、人間の機構を見立てられなければならない。言語発達の生物学的基礎を学び、それらが生育環境と力動的に関わりながら発達していく過程を理解できるようにする。言語発達上の各内容が発達全体の過程にどのように影響するのかを検討する。
到達目標	①人間の機構を見立てるにあたり、言語の側面から検討（情報収集のための推理）ができる。 ②発達臨床において発達課題を検討する際、言語発達を基礎とした仮説を立てることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 発達臨床における言語発達支援について。言語発達を学ぶ意義【講義・協議】</p> <p>第2週 言語発達の生物学的神経学的基礎 ①前言語期から始語までの発達過程【講義・協議】</p> <p>第3週 ②言語発達と脳構造・脳の側性化・脳の可塑性・言語領野【講義・協議】</p> <p>第4週 ③発声／発語器官の構造と機能と構音発達Speechのためのシート【DVD・講義】</p> <p>第5週 ④聴器の構造と聴覚検査・条件詮索反応聴力検査・聴性脳幹反応検査【講義】</p> <p>第6週 言語発達の社会的基礎 ①子どもの問題が養育者に与える影響【事例検討】</p> <p>第7週 ②関係性理論・詳しい問診票・共同注意・指さし・三項関係【DVD視聴・講義】</p> <p>第8週 ③社会的参照、語用論、語用論的アプローチ【講義・体験学習】</p> <p>第9週 言語発達の認知的基礎 ①聴覚的認知能力 ②言語と認知の交互作用説【事例検討】</p> <p>第10週 構音発達と音韻知覚・音韻意識との関係【講義・体験学習】</p> <p>第11週 一語発話・二語発話・文形成期・文法発達・多語文での助詞の役割【講義】</p> <p>第12週 言語発達の教育的側面：保育場面での支援【体験学習】</p> <p>第13週 前言語期【母親語】、韻律知覚の普遍的特徴、感覚運動期の言語【講義】</p> <p>第14週 実際例をもとに生育歴の収集の仕方を学習し、言語発達を概観する【演習】</p> <p>第15週 発達支援における言語発達支援の意義【初回と比較・討論】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	事前に配付資料を読んてくること・毎回の講義の振り返りメモを作成
成績評価	課題提出50% 受講状況30% 授業内試験20%
教科書	教科書は使用しない 必要に応じて資料プリントを配布
備考	D P 科目 「言語」の1-1～6を含む

科目名	教育心理学特論
単位数	2単位
担当教員	大野和男
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修, ○学校心理士受験
授業概要	教育心理学として学んできたことをさらに掘り下げ、実際にどのような問題が生じているのか、そのことを明らかにするのにどのような研究が行われているのか、そして、どのような解決が必要なのか考えていく。
到達目標	1. 学校教育の基盤としての教育心理学を理解する。 2. 教育現場において、教育心理学の応用を考える。 3. 教育心理学的なものの見方を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 学習成立の前提条件</p> <p>第2週 学習の理論</p> <p>第3週 学習過程と認知理論</p> <p>第4週 記憶の情報処理モデル</p> <p>第5週 記憶と知識獲得</p> <p>第6週 問題解決の過程</p> <p>第7週 動機づけの理論</p> <p>第8週 達成動機と原因帰属</p> <p>第9週 学校教育における動機づけ</p> <p>第10週 学習活動促進への援助</p> <p>第11週 授業と学習評価</p> <p>第12週 学習評価の方法</p> <p>第13週 教師・子ども間の学級内相互作用</p> <p>第14週 子ども同士の学級内相互作用</p> <p>第15週 学級集団作りへのコンサルテーション</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	資料に目を通す。
成績評価	課題提出50%, 発表・演習30%, 受講状況20%
教科書	教科書は指定せず, 必要に応じてプリントを配布
備考	講義と演習形式の両方を取り入れた形で行う予定です。自ら学ぶ姿勢を大事にしていきたいと思います。

科目名	学校心理学特論
単位数	2単位
担当教員	廣田昭久
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修, ○学校心理士受験
授業概要	学校心理学の概念と、学校心理学が基礎としている領域を示し、学校心理士として学ぶべき知識・技能について解説する。また、学校心理士が果たす基本的な役割、具体的な活動等について概説する。
到達目標	1 学校心理学が基盤とする分野との関連から、学校心理学を捉えることができる。 2 学校心理学の意義を理解し、学校心理士の果たす役割とその具体的な活動を把握できる。
授業内容・方法	<p>第1週 学校心理学とは：学校心理学と学校心理士</p> <p>第2週 学校心理学を支える基盤1：教育心理学、発達心理学、臨床心理学、障害児教育</p> <p>第3週 学校心理学を支える基盤2：生徒・進路指導、教育評価・心理検査、学校カウンセリング</p> <p>第4週 心理教育的援助サービスのモデル：援助サービスの意義と内容、事例</p> <p>第5週 4種類のヘルパー：専門的、複合的、役割的、ボランティア的ヘルパー</p> <p>第6週 3段階の援助サービスと援助サービスにおける3層システム</p> <p>第7週 学校心理士の活動1：アセスメント</p> <p>第8週 学校心理士の活動2：コンサルテーション</p> <p>第9週 学校心理士の活動3：カウンセリング</p> <p>第10週 学校心理士の活動4：コーディネーション</p> <p>第11週 教師・保護者らとのチーム援助：援助チームの特徴と意義</p> <p>第12週 チーム援助のプロセス</p> <p>第13週 教師・保護者・学校組織へのコンサルテーション</p> <p>第14週 学校心理士の倫理</p> <p>第15週 海外の学校心理士</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	学んだことの復習と理解を深めることを目的に、授業の中で適宜関連事項について討議を行う。
成績評価	課題提出50%、受講状況50%
教科書	教科書は指定せず、必要に応じて資料等を配布する。
備考	

科目名	特別支援教育教育課程特論
単位数	2単位
担当教員	新井良保
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ○臨床発達心理士受験
授業概要	自閉症児の指導、学習障害の概念、発達障害児の通級指導、重症心身障害児の教育的対応、ノーマライゼーション、など近年の障害児・者の動向等を概観し、ムーブメント法からの重度重複障害児、不器用な子ども達への発達支援など特別支援教育の教育課程に関連する内容等について学ぶ。
到達目標	①特別支援教育の教育課程に関する基本的考え方を理解できる ②新特別支援学校学習指導要領ならびに法的根拠等について理解できる ③特別支援教育の教育課程に関連する諸論文を検討・考察できる
授業内容・方法	<p>第1週 障害児の養護、障害者福祉の思想【演習・講義】</p> <p>第2週 高機能自閉症児の特別支援教育の現状と課題【演習・講義】</p> <p>第3週 高機能広汎性発達障害について【演習・講義】</p> <p>第4週 注意欠陥多動性障害への教育的アプローチ【演習・講義】</p> <p>第5週 不器用な子どものアセスメントと教育的支援【演習・講義】</p> <p>第6週 自閉症児の問題行動の理解と指導【演習・講義】</p> <p>第7週 自閉症児の治療指導実践【演習・講義】</p> <p>第8週 重症心身障害者の権利【演習・講義】</p> <p>第9週 重度重複障害児の感覚運動指導【演習・講義】</p> <p>第10週 重症心身障害児・者への支援【演習・講義】</p> <p>第11週 家族参加型ムーブメント教室の成果とコンサルテーション【演習・講義】</p> <p>第12週 発達障害とてんかん【演習・講義】</p> <p>第13週 全障害児教育法とIEP【演習・講義】</p> <p>第14週 ノーマライゼーションとインクルージョン【演習・講義】</p> <p>第15週 家族支援に生かしたムーブメント法の活用事例【演習・講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	参考文献・論文等を準備学習、復習として熟読。
成績評価	受講状況50%、課題提出50%
教科書	教科書は指定せず、授業中に授業内容におけるプリントを配布する。
備考	特別支援教育関連の和雑誌からの論文を要約する この授業はDP科目「基礎」の2-1、2-2、4-1~4-5を含む

科目名	特別支援教育コーディネーター特論
単位数	2単位
担当教員	當島茂登
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修
授業概要	特別支援教育を推進する上で、特別支援教育コーディネーターの役割は大きい。校内委員会の推進役、学校内外の関係者及び関係機関との連絡調整、保護者との相談窓口、担任への支援等多岐にわたる特別支援教育コーディネーターの任務及び求められる資質について理解する。
到達目標	1. コーディネーターとして関係者及び関係機関との連絡・調整力ができる 2. 学校等における事例について分析し、支援法等の提案や課題解決ができる。
授業内容・方法	<p>第1週 特殊教育から特別支援教育へ【講義】</p> <p>第2週 特別支援教育資料による特別支援教育の現状【調査・分析・発表】</p> <p>第3週 学習障害のある児童生徒への支援【DVD教材・講義】</p> <p>第4週 注意欠陥多動性障害のある児童生徒への支援【DVD教材・講義】</p> <p>第5週 広汎性発達障害のある児童生徒への支援【DVD教材・講義】</p> <p>第6週 特別支援教育を推進するために（文部科学省通知）【講義】</p> <p>第7週 特別支援学校のセンター的機能【調査・発表】</p> <p>第8週 特別支援教育コーディネーターの役割【調査・発表】</p> <p>第9週 小・中学校等における特別支援教育の課題【調査・発表】</p> <p>第10週 校内委員会の推進、校内研修会の企画と運営【調査・協議】</p> <p>第11週 学校内の関係者や関係機関との連絡・調整【調査・協議】</p> <p>第12週 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成【調査・作成】</p> <p>第13週 地域における関係者や関係機関との連絡・調整・協働【調査・協議】</p> <p>第14週 特別支援教育コーディネーターに係る諸課題【作成】</p> <p>第15週 課題の解説と特別支援教育コーディネーターの資質【講義・協議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に課題を出し、調査、分析、発表ができるように指示、振り返りシートで確認する。
成績評価	総括テスト50%、発表・レポート30%、受講状況20%
教科書	『特別支援教育の基礎・基本』国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社
備考	

科目名	学校教育学研究特論
単位数	2単位
担当教員	松永立志
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	現在の小学校教育における教育課題や教師・児童・保護者の状況等について、小学校や教育委員会事務局などにおける調査や、各種文献・資料などの収集・調査研究及び分析を行うことにより、理解を一層深め、現在そして将来にわたって求められる学校教育の在り方と、教師のあるべき姿等について、多角的に考察する。
到達目標	(1)現在の学校教育を多方面から調査・研究し、その課題と背景について理解できる。 (2)教育課題の改善策について、提示し説明できる。 (3)求められる学校教育と教師の在り方について考察し、一定の考えをもつことができる。
授業内容・方法	<p>第1週 学校教育学研究のねらいとその調査研究・方法等について理解する。</p> <p>第2週 現在の学校教育に関する課題の資料を収集し、その状況を理解する。</p> <p>第3週 母校及び各学校に対する調査内容を検討し考察する。</p> <p>第4週 本学の初等部を訪問し、実地に調査研究を行う。</p> <p>第5週 横浜市立小学校を訪問し、実地に調査研究を行う。Ⅰ</p> <p>第6週 横浜市立小学校を訪問し、実地に調査研究を行う。Ⅱ</p> <p>第7週 横浜市教育委員会事務局を訪問し、実地に調査研究を行う。</p> <p>第8週 調査研究した結果を分析し、教育課題を把握する。</p> <p>第9週 教育委員会に寄せられる学校と教師に対する苦情とその処理について理解する。</p> <p>第10週 マスメディアで報道される教育問題について理解する。</p> <p>第11週 学校教育と教育行政のかかわりについて理解する。</p> <p>第12週 現在そして将来にわたって求められる学校教育の在り方について考察する。</p> <p>第13週 現在そして将来にわたって求められる教師の姿について考察する。</p> <p>第14週 今後あるべき学校教育と自らのかかわりについて発表討論する。Ⅰ</p> <p>第15週 今後あるべき学校教育と自らのかかわりについて発表討論する。Ⅱ</p> <p>定期試験等 実施せず。</p>
準備・発展学習	提示された課題について事前にまとめ、自分の考えをもって受講すること。
成績評価	課題提出30% 実践(資料収集調査研究)20% 発表30% 受講状況20%
教科書	特に指定しない。必要資料等は配付する。
備考	「学習指導要領等の改善について(中教審答申平成20年1月17日)」「横浜市教育進行基本計画(横浜市教育委員会平成23年1月)」は、資料として有用である。

科目名	学校教育学研究方法論
単位数	2単位
担当教員	鈴木樹
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	この授業では、学校教育学研究を行うに当たって必要な研究方法論を学習する。文献研究と調査研究（質問紙調査、インタビュー、エスノグラフィーなど）の方法について、研究方法に注目しながら実際の教育研究論文を読み、その方法を習得する。論文の書き方についても演習を行う。
到達目標	1 研究テーマによって適切な研究方法が選択できる。2 基本的な文献研究ができる。3 量的調査（質問紙調査など）と質的調査（観察、エスノグラフィーなど）の手順を提案することができる。4 パラグラフ・ライティングによる論文が作成できる。
授業内容・方法	<p>第1週 児童学と学校教育学、学校教育学の分野【講義】</p> <p>第2週 学校教育学の研究テーマと研究方法の分類【講義】</p> <p>第3週 学校教育学研究の研究倫理【講義】</p> <p>第4週 先行研究の検討の方法【文献検索の実習】</p> <p>第5週 引用の方法と著作権【講義と演習、文献の実例検討】</p> <p>第6週 学校教育の哲学・思想研究（文献研究の方法）【文献購読】</p> <p>第7週 学校教育の歴史研究（史料分析）【文献購読】</p> <p>第8週 学校教育の調査研究（量的研究と質的研究）【講義】</p> <p>第9週 調査結果のデータ分析（平均値、クロス集計表など）【文献購読を通じた演習】</p> <p>第10週 学校教育の調査研究に必要な統計学【文献購読を通じた演習】</p> <p>第11週 学校教育の量的調査研究の実例【文献購読を通じた演習】</p> <p>第12週 学校教育の聞き取り調査・インタビュー調査【文献購読を通じた演習】</p> <p>第13週 学校教育のエスノグラフィー【文献購読と講義】</p> <p>第14週 学校教育の論文の書き方（論文の構想とパラグラフ・ライティング）【講義】</p> <p>第15週 学校教育の論文の書き方（論文執筆の演習）【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。</p>
準備・発展学習	学会誌・紀要の研究論文、心理・教育調査法の書籍、統計学の書籍などを読むこと。
成績評価	授業内評価（発表50％、受講状況50％）
教科書	教科書なし。講義の中で、実際の研究論文、心理・教育調査法の書籍、心理・教育統計の書籍などを紹介する。
備考	

科目名	世界の教育・文化特論
単位数	2単位
担当教員	梨本加菜・平井悠介
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	現代の世界の教育改革の動向をふまえながら、学校教育を中心とした特色ある教育について、比較教育的視点をもって学びます。諸外国の教育改革が社会・経済状況、独自の文化を反映していることを理解するとともに、日本の教育・文化との比較を通じて、その共通性と差異を学びます。
到達目標	①現代の世界の教育改革の動向について、国家・コミュニティ・親の関係性のなかで捉え、各国の社会・経済状況と関連させて理解できる。 ②学校教育における表現文化の歴史的特性を比較検討できる。
授業内容・方法	<p>第1週 インTRODクシヨン：世界の教育に目を向ける必要性と方法の解説【講義】</p> <p>第2週 フィンランドの教育：学力世界一の理由と教員養成【講義】</p> <p>第3週 アメリカの教育（1）：1980年代以降の教育改革とその成果【講義】</p> <p>第4週 アメリカの教育（2）：日米の作文教育の差異と文化【講義】</p> <p>第5週 イギリスの教育：ナショナルカリキュラムの制定から市民科の必修化へ【講義】</p> <p>第6週 ドイツの教育：学校の自律性と特色ある教育実践【講義】</p> <p>第7週 フランスの教育：多文化教育から異文化理解のあり方を考える【講義】</p> <p>第8週 教育の文化比較に関する中間総括：国家・コミュニティ・家庭の視点から【集団討議】</p> <p>第9週 物語文化と教育（1）：絵本・児童文学と学校【講義・講読】</p> <p>第10週 物語文化と教育（2）：ストーリー・テリングを考える【見学・小レポート】</p> <p>第11週 演劇文化と教育（1）：演劇と学校【講義・講読】</p> <p>第12週 演劇文化と教育（2）：演劇ワークショップを考える【情報収集・討議】</p> <p>第13週 映像文化と教育（1）：映像文化と学校放送【見学・小レポート】</p> <p>第14週 映像文化と教育（2）：視聴覚教材を考える【講読・討議】</p> <p>第15週 学校教育と文化：課題の検討【討議・小レポート】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	第1週において準備学習、復習のための参考文献、資料を検討・確定する。
成績評価	受講状況50% 課題提出（総括レポート）50%
教科書	教科書なし。 授業時に、資料を含むレジユメを配布予定。
備考	第1～8週は平井担当、第1、9～15週は梨本担当。 施設見学を予定している（利用料、交通費は自己負担）。

科目名	児童学フィールド研究
単位数	2単位
担当教員	小泉裕子・小国美也子・藤岡孝充・松田広則・渡邊眞一
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	本講義は、児童学総合研究科目群における教員のアドバイスの下で、修士論文作成の準備段階として位置付く。 担当教員の指導するフィールドに関し、自ら主体的に研究計画を立案し、調査・実験を実施し、結果を分析・考察するなど多様な領域におけるの研究手続きを学ぶ。
到達目標	本講義では、多様な児童学領域にあるそれぞれの研究課題を見だし、臨床経験・調査研究等、実証的な研究能力を獲得することを目的とする。
授業内容・方法	<p>第1週 調査研究1-1(課題の決定)「初等教育フィールド」(小泉)【講義】</p> <p>第2週 調査研究1-2(フィールド調査)「初等教育フィールド」(小泉)【調査】</p> <p>第3週 調査研究1-3(結果と考察)「初等教育フィールド」(小泉)【発表】</p> <p>第4週 調査研究2-1(課題の決定)「児童福祉フィールド」(渡辺)【講義】</p> <p>第5週 調査研究2-2(フィールド調査)「児童福祉フィールド」(渡辺)【調査】</p> <p>第6週 調査研究2-3(結果と考察)「児童福祉フィールド」(渡辺)【発表】</p> <p>第7週 調査研究3-1(課題の決定)「発達臨床フィールド」(小国)【講義】</p> <p>第8週 調査研究3-2(フィールド調査)「発達臨床フィールド」(小国)【調査】</p> <p>第9週 調査研究3-3(結果と考察)「発達臨床フィールド」(小国)【発表】</p> <p>第10週 調査研究4-1(課題の決定)「表現文化(芸術)フィールド」(藤岡)【講義】</p> <p>第11週 調査研究4-2(フィールド調査)「表現文化(芸術)フィールド」(藤岡)【調査】</p> <p>第12週 調査研究4-3(結果と考察)「表現文化(芸術)フィールド」(藤岡)【発表】</p> <p>第13週 調査研究5-1(課題の決定)「表現文化(体育)フィールド」(松田)【講義】</p> <p>第14週 調査研究5-2(フィールド調査)「表現文化(体育)フィールド」(松田)【調査】</p> <p>第15週 調査研究5-3(結果と考察)「表現文化(体育)フィールド」(松田)【発表】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	
成績評価	授業内評価を以下のように実施する、①課題提出ー各フィールド調査研究報告書、②発表ー研究成果のプレゼンテーションの内容に基づき成績を評価する。
教科書	各専門領域に応じ、授業の中で適宜紹介する。
備考	各専門領域の専門書の購読

科目名	教育基礎理論特論
単位数	2単位
担当教員	米山弘
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修
授業概要	教育の基礎理論として、古くから「教育と文化」の問題がある。そこから教育と科学、教育と道徳、教育と芸術、教育と宗教、教育と健康、また教育と労作の間系が考えられる。「教育と自然」、「教育と社会・歴史」についても考察の必要がある。以上に関係する教育論を基礎理論として検討する。
到達目標	教育学は全て、人間形成に関する事象（社会・歴史・文化等々）を基礎としていることに気づき、学際的な特徴を持った理論や科学であることを理解できる。
授業内容・方法	<p>第1週 本講義の主旨と関係文献の提示</p> <p>第2週 教育の発生と事実。</p> <p>第3週 教育の意図的必要（学校の起源）について</p> <p>第4週 教育は社会の存続・維持・発展</p> <p>第5週 文化内容（科学・道徳・芸術・宗教）と教育</p> <p>第6週 人間性（知・情・意）と教育科学</p> <p>第7週 よく生きる力と教育</p> <p>第8週 よく生きる生き方と教育</p> <p>第9週 よく生きる価値と教育</p> <p>第10週 直観と教育</p> <p>第11週 労作と教育</p> <p>第12週 ルソー・ペスタロッチー・フレーベルの教育学</p> <p>第13週 G, ケルシェンシュタイナー・E, シュプランガーの教育思想</p> <p>第14週 今日の教育科学</p> <p>第15週 教育基礎理論の纏め</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。レポート提出とする。</p>
準備・発展学習	毎回、前回の復習を行い、次回の予告と参考文献を提示する。
	レポートで提出 40%、受講状況（ノート提出、リアクションペーパー）60%
教科書	使用せず。適宜プリントを配布する。
備考	

科目名	教育課程・指導法特論
単位数	2単位
担当教員	神林信之
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修
授業概要	教育課程の意味、わが国の学習指導要領の変遷、改訂学習指導要領の理念と内容、学校における教育課程の原理と実際等について講義、演習を行う。
到達目標	急激に変化する社会において一人の価値ある人間として心豊かにたくましく生き抜く資質を養う活動や経験の在り方について、自分なりの考えを持ち、具体的な提言をすることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育課程の概念① -教育観、子ども観- 【講義】</p> <p>第2週 教育課程の概念② -教育目的、教育目標- 【講義】</p> <p>第3週 教育課程の概念③ -学習活動の構造- 【講義】</p> <p>第4週 教授＝学習理論の形成と展開 【講義】</p> <p>第5週 わが国および諸外国における総合・合科的学習 【講義】</p> <p>第6週 生きる力とキー・コンピテンシー 【講義】</p> <p>第7週 教育課程編成の原理と実際① 【講義・演習】</p> <p>第8週 教育課程編成の原理と実際② 【講義・演習】</p> <p>第9週 カリキュラム開発演習① 【演習】</p> <p>第10週 カリキュラム開発演習② 【演習】</p> <p>第11週 カリキュラム開発演習③ 【演習】</p> <p>第12週 カリキュラム開発演習④ 【演習】</p> <p>第13週 カリキュラム開発演習⑤ 【演習】</p> <p>第14週 教育課程編成の原理と実際③ 【講義・演習】</p> <p>第15週 まとめ 【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	
成績評価	講義や演習への取組60%、レポート40%
教科書	『授業批評の力を鍛える』 齋藤勉、明治図書
備考	

科目名	幼稚園経営管理特論
単位数	2単位
担当教員	志村雄治
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修
授業概要	現在、わが国の幼稚園教育、保育制度は、「幼保連携型認定こども園」制度の創設等大きな転換点を迎えている。そこで、幼稚園教育制度の変遷、幼稚園教育課程、評価、保護者との対応、教育管理、危機管理等に焦点をあて、実践の場からの資料をもとに考察・討論をする。
到達目標	1. 幼稚園の経営管理の現状と問題点について理解する。 2. それらの問題点について、いかに解決すれば良いか、さまざまな角度から研究し、自らの方策を考える。
授業内容・方法	<p>第1週 現代における幼児教育、保育制度の状況と課題</p> <p>第2週 幼稚園教育の変遷Ⅰ 明治・大正・昭和前半（保育要領まで）</p> <p>第3週 幼稚園教育の変遷Ⅱ 幼稚園教育要領制定（昭和30年）と改訂</p> <p>第4週 幼稚園教育の変遷Ⅲ 中教審46答申と臨教審、平成元年の改訂</p> <p>第5週 幼稚園教育の変遷Ⅳ 平成11年と21年の改訂</p> <p>第6週 幼稚園教育課程と指導計画の編成 建学の精神・幼稚園教育課程の考え方</p> <p>第7週 幼稚園教諭の専門的成長 自己点検・自己評価</p> <p>第8週 幼稚園の評価と教育内容の評価 学校関係者評価・第三者評価</p> <p>第9週 幼児に関する文書管理（指導要録・健康診断書・その他）</p> <p>第10週 保護者との対応、子育て相談、父母の会活動</p> <p>第11週 小学校、保育所、関係機関、公共施設との連携</p> <p>第12週 幼稚園の運営管理、財務管理、県の調査</p> <p>第13週 幼稚園の施設管理、危機管理（防災計画、消防署や警察署との対応）</p> <p>第14週 レポートの課題設定、受講者・担当教官からのフィードバック</p> <p>第15週 レポート作成、プレゼンテーション</p> <p>定期試験等</p>
準備・発展学習	配布するプリントを参考に、課題を探る
成績評価	授業への出席および参加度、レポートの内容および発表を総合して評価する。
教科書	プリント
備考	

科目名	小児栄養学特論
単位数	2単位
担当教員	森政淳子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	子どもの栄養摂取は著しく変化し、健康と深く関わります。一方で、子どもの食事環境も変化しています。子どもの食生活の現状を多角的に把握するために文献抄読を行い、栄養教育プログラムの一連の過程を研究します。
到達目標	1. 子どもの健康と食生活の関わりが理解できる。 2. 子どもの食生活情報から問題点が抽出できる。 3. 個別の子どもに合わせた、食生活の提案ができる。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもの健康と食生活 小児栄養学の意義と目的</p> <p>第2週 子どもの発育・発達と食生活</p> <p>第3週 栄養と代謝 栄養補給法とエネルギー</p> <p>第4週 栄養と代謝 炭水化物・脂質・たんぱく質</p> <p>第5週 栄養と代謝 ビタミン・ミネラル・他</p> <p>第6週 文献抄読 文献検索</p> <p>第7週 文献抄読 課題意識と文献選択</p> <p>第8週 文献抄読 発表資料の作成</p> <p>第9週 文献抄読 プレゼンテーションおよび討議</p> <p>第10週 文献抄読 プレゼンテーションおよび討議</p> <p>第11週 乳幼児期における食生活上の課題</p> <p>第12週 学童期・思春期における食生活上の課題</p> <p>第13週 子どもの食生活上の課題と施策</p> <p>第14週 保育施設・学校等の食生活改善に関する取り組み</p> <p>第15週 提出物と解説</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	文献の選択・レジュメ・プレゼンテーションの準備 課題意識の整理
成績評価	発表50% 課題提出30% 受講状況20%
教科書	指定教科書は無し、資料等を配布
備考	栄養学は生体内の科学から、社会学まで学際的な分野を網羅しています。幅広い視点で学ぶ姿勢が求められます。

科目名	児童福祉学特論
単位数	2単位
担当教員	石川修
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	児童虐待における親支援、親子再統合のあり方を考える基本となる社会問題をとらえ、多様な角度から理解を深める。また、児童虐待における関係機関のネットワークを学び、臨床的見地から検討する。さらには、被虐待児のケアのあり方を社会的養護の現状をふまえたうえで理解を深め、児童虐待を通して子ども家庭福祉の視点を学ぶ。
到達目標	①「児童の権利に関する条約」を通して、子ども家庭福祉の現状と課題の理解を深める。 ②児童相談所機能と社会的養護問題の理解を深め、課題解決のためのネットワークを研究する。 ③社会的養護を必要とする子どもの”自立”と”親子再統合”を考える。
授業内容・方法	<p>第1週 「児童の権利に関する条約」から子ども家庭福祉の実践、現状を概観する。</p> <p>第2週 児童相談所の役割・機能を理解し、ソーシャルワーク実践を学ぶ。</p> <p>第3週 市町村の児童相談機能を踏まえ、児童相談所の役割について学ぶ。</p> <p>第4週 しつけと子ども虐待の相違、狭間を考え、子ども家庭福祉の視点を考える。</p> <p>第5週 子ども虐待相談の特性を理解し、その現状を概観する。</p> <p>第6週 児童相談所における子ども虐待の対応について理解を深める。</p> <p>第7週 子ども虐待対応における法制度を理解し、司法関係との連携を考える。</p> <p>第8週 要保護児童対策を学び、社会的養護のあり方を学ぶ。</p> <p>第9週 児童養護施設における自立支援について考える。</p> <p>第10週 里親やその他の児童福祉施設における”自立”を考える。</p> <p>第11週 児童福祉施設の実態を理解し、自立支援に向けた今後の方向性を考える。</p> <p>第12週 里親制度の背景や現状を理解し、自立支援に向けた課題を研究する。</p> <p>第13週 地域児童虐待防止ネットワークの現状を理解し、関係機関との連携を学ぶ。</p> <p>第14週 子ども虐待における親支援、親子再統合のあり方について研究する。</p> <p>第15週 社会的養護におけるソーシャルワークの役割について理解を深める。</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。</p>
準備・発展学習	子ども虐待にかかる報道等で、問題の発生や関わる機関等の現状を把握すること。
成績評価	課題レポート60% 受講状況40%（講義中の発表も含む）
教科書	随時必要な資料を配布する。また、参考資料はその都度紹介する。
備考	初回に受講方法、課題について説明。

科目名	子ども心理学フィールド研究
単位数	2単位
担当教員	小国美也子・飯村敦子・大野和男
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○臨床発達心理士受験
授業概要	現場を实地見学することにより、実践と理論とを結びつける。具体的には、幼稚園、小学校、適応指導教室、病院の発達障害支援教室などの現場で観察、体験する中で、各自の研究課題（子どもの発達・教育課程の特徴や問題点など）を見出して研究する手法を学ぶ。
到達目標	1. 子ども心理学に密接にかかわる現場を体験し理解を深める中での研究手法を習得する。 2. 各フィールドの中で見出した研究テーマをもとに、文献を調べレポートにまとめる力を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 子ども心理学フィールド研究の概論【講義】</p> <p>第2週 フィールド研究の基本的概念、手法【講義】</p> <p>第3週 フィールド研究① 実施前オリエンテーション【講義・討論】</p> <p>第4週 フィールド研究② 実施前オリエンテーション【講義・討論】</p> <p>第5週 フィールド研究③ 実施前オリエンテーション【講義・討論】</p> <p>第6週 フィールド研究④ 実施前オリエンテーション【講義・討論】</p> <p>第7週 フィールド研究① 実施【実習】</p> <p>第8週 フィールド研究① 実施後指導</p> <p>第9週 フィールド研究② 実施【実習】</p> <p>第10週 フィールド研究② 実施後指導</p> <p>第11週 フィールド研究③ 実施【実習】</p> <p>第12週 フィールド研究③ 実施後指導</p> <p>第13週 フィールド研究④ 実施【実習】</p> <p>第14週 フィールド研究④ 実施後指導</p> <p>第15週 レポートの発表</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	実施に行く前に、研究目的をしっかりと立てて準備をしてください。
成績評価	科目担当教員が、受講状況・課題提出(フィールド別レポートと最終レポート)・報告会でのディスカッションを評価し(各25%)、それを合計して最終的な評価とする。
教科書	指定教科書はない。適宜資料を用意する。
備考	研究意欲と積極的なアプローチが大切です。 この授業はDP科目「育児」の1-1. 1-2を含む。

科目名	子ども精神医学特論
単位数	2単位
担当教員	小国美也子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ○臨床発達心理士心理士受験
授業概要	子どもの心身の発達および認知発達とその障害について理解を深めていく。更に、乳幼児期から老年期にいたるまでの精神障害について学ぶ。この授業では、自ら疑問に思ったことや興味のあることについて調べ、それを中心に講義を進めていく。
到達目標	1. 子どもの心身の発達および認知発達とその障害を理解する。 2. 疑問や興味を持った事柄について、自ら調べ解決する力を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 子ども精神医学についての概要【講義】</p> <p>第2週 乳幼児期の心身の発達【講義・討論】</p> <p>第3週 心身の発達と障害（認知）【講義・討論】</p> <p>第4週 心身の発達と障害（言葉）【講義・討論】</p> <p>第5週 心身の発達と障害（知能）【講義・討論】</p> <p>第6週 子どもの発達と異常 1【講義・討論】</p> <p>第7週 子どもの発達と異常 2【講義・討論】</p> <p>第8週 子どもの発達と異常 3【講義・討論】</p> <p>第9週 レポート発表（1回目）とディスカッション 1</p> <p>第10週 ディスカッション 2（レポート発表に関係すること）</p> <p>第11週 レポート発表（2回目）とディスカッション 3</p> <p>第12週 ディスカッション 4（レポート発表に関係すること）</p> <p>第13週 レポート発表（3回目）とディスカッション 5</p> <p>第14週 ディスカッション 6（レポート発表に関係すること）</p> <p>第15週 子ども精神医学の展望（講義）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	発達を軸に子どもの精神疾患を考えていくが、授業で行った内容は必ず図書館で詳しい本を読んで確かめること。
成績評価	課題提出 40%、発表・実践30%、受講状況 30%
教科書	使用しない。
備考	この授業はDP科目「認知」の2-1～2-3、3-1～3-3を含む。

科目名	言語発達の評価と支援
単位数	2単位
担当教員	作間祐子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○臨床発達心理士受験
授業概要	対象児の言語発達評価のために、生物・心理・社会的各側面から力動的にとらえることができるように的確な情報収集の仕方、様々な心理・教育アセスメントバッテリーの利用の仕方を学習する。更にこれに即した支援の実際や、言語発達支援の現代的問題と支援の場について理解し、望ましい支援のありようについて検討する。
到達目標	①対象児の言語発達評価が正しくできる。②実際の支援に役立つ評価とその効用について仮説検証的に修正していくことができる。③全体発達との関係を視野に入れることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 言語発達評価と診断の要点－全体の流れの概観と必要な知識【講義・協議】</p> <p>第2週 言語発達評価と支援の実際 ①新版K式発達検査・田中ビネー知能検査【講義・体験】</p> <p>第3週 ②ITPA言語学習能力診断検査・PBT検査【講義・体験】</p> <p>第4週 ③K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー【講義・体験】</p> <p>第5週 ④認知と言語の対応関係【講義・体験】</p> <p>第6週 ⑤構音検査・構音の誤り・構音障害の理解【講義・体験】</p> <p>第7週 言語発達段階に即した対応、語彙獲得の個人差、MLU・言葉のテスト絵本【体験学習】</p> <p>第8週 ダウン症児の言語発達評価と支援について検討。スクリプトの活用【講義・体験】</p> <p>第9週 自閉症児の言語発達評価と支援。TEACHプログラム、メタ言語【講義・実技】</p> <p>第10週 注意欠陥・多動障害の言語発達評価と支援【講義】</p> <p>第11週 心理的問題におけるコミュニケーション発達の影響【事例検討】</p> <p>第12週 言語領野（ブローカー領野とヴェルニック領野）と失語症、特異的言語発達障害【講義】</p> <p>第13週 吃音の生起メカニズムと治療【事例検討】</p> <p>第14週 実際例の評価と支援の方向性【模擬相談】</p> <p>第15週 言語発達支援の現代的問題と支援の場【講義・討論】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	事前に配付資料を読んでもくること・毎回の講義の振り返りメモを作成
成績評価	課題提出50% 受講状況30% 授業内試験20%
教科書	教科書は使用しない 必要に応じて資料プリントを配布
備考	D P 科目 「言語」の2-1～3、2-5を含む

科目名	障害児の心理と教育
単位数	2単位
担当教員	飯村敦子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修
授業概要	この科目では、知的障害、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等に関するリサーチカンファレンスを通して、その心理特性や教育支援のあり方について検討する。
到達目標	1. 各障害の概念、発達特性に関わる研究の動向を習得する。 2. 障害のある子どもの心理発達と教育実践につながる問題提起ができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 ICFによる障害の考え方（講義）</p> <p>第2週 知的障害の概念・発達特性（演習）</p> <p>第3週 知的障害の心理特性に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第4週 知的障害児の教育に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第5週 広汎性発達障害の概念・発達特性（演習）</p> <p>第6週 広汎性発達障害の心理特性に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第7週 広汎性発達障害児の教育に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第8週 学習障害の概念・発達特性（演習）</p> <p>第9週 学習障害の心理特性に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第10週 学習障害児の教育に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第11週 注意欠陥多動性障害の概念・発達特性（演習）</p> <p>第12週 注意欠陥多動性障害の心理特性に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第13週 注意欠陥多動性障害児の教育に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第14週 発達障害児の特別支援教育に関するリサーチカンファレンス</p> <p>第15週 特別支援教育の現状に関するリサーチカンファレンス</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	課題の資料（文献）を読み、発表資料を作成する。 リサーチカンファレンスを基にレポートを作成する。
成績評価	課題提出 50%、カンファレンスにおける問題提起 30%、受講状況 20%
教科書	資料・文献を配布する。
備考	

科目名	特別支援教育特論
単位数	2単位
担当教員	松瀬三千代
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ○学校心理士受験
授業概要	ICFについて理解する。障害のある子どもの教育の現状について知り、特別支援教育はすべての学校種で進められていくべき教育であることの理解が深まるよう授業を展開する。知的障害をはじめ様々な障害の特性と指導方法について理解を深める。WISC-III (WISC-IV) 検査の方法や活用の仕方をも身につける。
到達目標	①ICFの概要が理解でき、説明できる。②特別支援教育の意義について考察することができる。③様々な障害の特性と指導のポイントを説明することができる。④WISC-III等の検査の基本ができて、結果を読み取ることができる。
授業内容・方法	<p>第1週 障がいのある子どもや人々に関する知識や経験・体験を語る。(演習)</p> <p>第2週 ICF、ICF-CYの概要を理解し、障がいについて考える。(講義と演習)</p> <p>第3週 障がいのある子どもの教育の現状について：特別支援教育の現状(講義)</p> <p>第4週 障がいのある子どもの学校システム(講義)</p> <p>第5週 障がいのある子ども教育課程(講義)</p> <p>第6週 知的障がいのある子どもの特性と指導方法の理解(講義、DVD教材)</p> <p>第7週 肢体不自由のある子どもの特性と指導方法の理解(講義、DVD教材)</p> <p>第8週 重度重複障がいのある子どもの特性と指導方法の理解(講義、DVD教材)</p> <p>第9週 広汎性発達障害の子どもの特性と指導方法の理解(講義、DVD教材)</p> <p>第10週 LD、ADHD等の子どもの特性と指導方法の理解(講義、DVD教材)</p> <p>第11週 障がいのある子どもの教育ニーズの把握について(講義)</p> <p>第12週 WISC-III (WISC-IV) 検査の概要について(講義)</p> <p>第13週 WISC-III (WISC-IV) 検査を実施する：模擬検査の実施(演習)</p> <p>第14週 WISC-III (WISC-IV) 検査の結果と解釈について(演習)</p> <p>第15週 障がいのある子どもの教育の展望について：インクルーシブな教育について(講義)</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	障がいについて、特別支援教育についてどんなことでもよいので知識を得ておく。学んだことに関して自分なりに考えを深めていけるよう講義後小課題の提出を求める。
成績評価	受講状況 70%、レポート提出課題 30%
教科書	教科書は指定せず、随時資料等を配布する。
備考	

科目名	発達・教育評価演習
単位数	2単位
担当教員	加藤吉和
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○学校心理士受験, ○臨床発達心理士受験
授業概要	個別心理検査の基礎実習を通して、心理アセスメントについて理解しながら発達評価の方法について学習する。また、学級・学校現場における、これらの知識を用いた教育評価と教育の改善方法について学ぶ。受講生による発表と実習（検査者と被験者になって心理検査を実施）に講義を加えながら授業を進めていく。
到達目標	1. 心理・教育アセスメントとの理論、方法、活用法について理解できる。 2. 個別心理検査の基礎実習により、発達評価ができるようになる。 3. 学級・学校での発達・教育評価を理解し、教育現場の実践に活かすことができる。
授業内容・方法	<p>第1週 心理教育的アセスメントの対象・目的・限界等について理解する【講義】</p> <p>第2週 心理教育的アセスメントの方法について（観察・面接・心理検査を理解する）【演習】</p> <p>第3週 心理検査の活用（検査の種類・目的・対象・記録方法・倫理について理解する）【演習】</p> <p>第4週 学級・学校の状況（校内組織や援助資源の活用、学級の人間関係を分析する）【演習】</p> <p>第5週 教育評価を教育の改善に役立てる（評価の目的・評価の種類・方法について）【実習】</p> <p>第6週 「田中ビネーV知能検査」の実施方法と得られた結果について理解する【実習】</p> <p>第7週 「WISC-IV知能検査」の実施方法について理解する【実習】</p> <p>第8週 「WISC-IV知能検査」の実施で得られた結果について理解する【実習】</p> <p>第9週 「K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー」の実施方法について理解する【実習】</p> <p>第10週 「新版K式発達検査」の実施方法の理解と得られた結果について理解する【実習】</p> <p>第11週 「教師作成テスト」・「標準学力検査」について理解する【実習】</p> <p>第12週 「谷田部ギルフォード性格検査（YG）」の実施方法と結果について理解する【実習】</p> <p>第13週 描画検査（バウムテスト・人物画・HTP）の実施方法と結果について理解する【実習】</p> <p>第14週 治療的描画法（風景構成法等）の実施方法とその治療的意味を理解する【実習】</p> <p>第15週 アセスメント結果を生徒指導と援助に活かす（ケース報告とフィードバック）【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	心理学と統計学の基礎知識についての準備学習が必要である。
成績評価	課題提出60%、発表20%、受講状況20%、
教科書	教科書は指定せず、文献、資料等を配布する。
備考	時間内に実習が終わらない場合は受講生どうしで足りない部分を補うことが必要となる。随時レポート提出を課す。 この授業はDP科目「基礎」の3-2～3-4、及び「社会情動」の2-1～2-5を含む。

科目名	子ども発達教育学（ムーブメント教育・療法）特論
単位数	2単位
担当教員	小林芳文
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ◎ムーブメント上級指導者
授業概要	児童の成長、発達、教育にとって、身体的、運動的関わりは大きな役割を担っている。この授業は身体運動を軸にしたムーブメント活動が、如何に心理的、認知的、情緒的機能に関係するかについて理解し、具体的にどのように支援するかを検討する。時々実技を入れて進む。
到達目標	フロスティッグのムーブメント教育・療法の理論と支援の方法について理解し、それと関係する障害の児童にどのように実践するか、その活用を学習する。
授業内容・方法	<p>第1週 ムーブメント活動による発達支援、療育支援とはなにか、その基礎を理解する</p> <p>第2週 児童期における発達の順序、感覚運動の機能から高次の認知機能を理解する</p> <p>第3週 ムーブメント活動と身体運動の属性を理解する</p> <p>第4週 発達に及ぼす身体意識の考え方、定義について理解する</p> <p>第5週 身体意識のスキル支援と障害特性について分析する</p> <p>第6週 創造的ムーブメントの教育について考える</p> <p>第7週 創造的ムーブメントの支援、展開について考える</p> <p>第8週 ムーブメント活動での心理的諸機能、情動的諸機能について理解する</p> <p>第9週 言語発達、視知覚発達、高次の認知機能について理解する</p> <p>第10週 言語発達、視知覚発達、高次の認知機能について理解する②</p> <p>第11週 ムーブメント活動での連合諸機能について理解する</p> <p>第12週 教科学習とムーブメント教育・療法について理解する</p> <p>第13週 学習困難児の支援とムーブメント教育・療法を理解する</p> <p>第14週 ムーブメント教育・療法の施設、設備、遊具、運営を考える</p> <p>第15週 ムーブメント教育・療法の構造化を考える、検討する</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	各回、事前に教科書の該当箇所を読んでくる。時に、課題レポートを課す。
成績評価	成績は出席状況50%、発表状況30%、レポートなど20%を参考にする
教科書	小林芳文訳 (M, Frostig) 「フロスティッグのムーブメント教育・療法—理論と実際」 日本文化科社、2007年
備考	初回に受講方法、課題について説明する。

科目名	学校教育学フィールド研究
単位数	2単位
担当教員	中島朋紀
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	教育の理論と実践を融合させる研究として、教育実践力・指導力の育成に関わる専門性の構築を目指し、学校現場（併設校：初等部）での実習やアクション・リサーチを行う。フィールドワークを積極的に活用し、より実践的に子ども理解及び学級経営力、授業実践力、教職に対する意欲・使命感の向上を図ることをねらいとする。
到達目標	1. フィールドワークでの演習・研究を通して、児童理解や授業デザイン、教育システムの設計・運営力を身につける。 2. 望ましい教師の在り方を探究し、教育的関わりや実践的指導に臨む資質、価値観を形成する。
授業内容・方法	<p>第1週 学校教育学フィールド研究の意義【講義】</p> <p>第2週 教育システムと現代の学校教育に求められることについて【講義】</p> <p>第3週 学校教育目標の意義と学校経営の評価と日常の指導の関係【講義】</p> <p>第4週 学校教育と児童・教師について1：学級経営について【演習：フィールド研究】</p> <p>第5週 学校教育と児童・教師について2：教科指導について【演習：フィールド研究】</p> <p>第6週 教科の指導方法の研究1：授業の目標と教材研究【講義・演習】</p> <p>第7週 教科の指導方法の研究2：学習指導案の検討と模擬授業【講義・演習】</p> <p>第8週 授業の実践と整理【実践】</p> <p>第9週 学校教育における児童理解と指導方法の研究1：学級経営について【講義】</p> <p>第10週 学校教育における児童理解と指導方法の研究2：生活指導について【講義・実践】</p> <p>第11週 児童理解と指導記録・プロトコールのまとめ【講義】</p> <p>第12週 学校組織と運営の意味・機能について【講義・演習：フィールド研究】</p> <p>第13週 学校教育と危機管理・学校の安全について【講義・演習：フィールド研究】</p> <p>第14週 学校教育と現代教育の課題及びその対応について1：保護者対応の在り方【事例研究】</p> <p>第15週 学校教育と現代教育の課題及びその対応について2：実践的指導方法【課題研究】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド研究や実践的指導を通して教師力を目指し研究活動を行う。 ・教師と積極的に話し合い意見交換をしながら、自分の見識を広げ、考えを深める。
成績評価	受講状況30%、課題提出30%、演習・実践40%
教科書	テキストは使用せず、必要に応じて参考文献・資料・プリントを配布。
備考	併設校初等部でのフィールド研究を中心として、教育現場の教師の指導や助言も受けながら、現今に求められる教師の実践力の要因について学ぶ。

科目名	学校経営管理特論
単位数	2単位
担当教員	松本安博
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	学校経営管理の内容と考え方を知り、学校訪問を通して実際の学校経営管理や学校改善・改革の事例に触れるとともに、その過程で見出してきた疑問や課題に考察を加え、特色ある学校づくりにおける学校経営管理の重要性について理解を深めていく。
到達目標	1. 学校経営管理の内容と考え方を述べる。 2. 特色ある学校づくりにおける学校経営管理の重要性を述べる。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、学校経営管理の内容と考え方（講義）</p> <p>第2週 学校経営管理を具現化する「学校経営計画（全体構想図）」（講義）</p> <p>第3週 「学校経営計画」の策定と関連法規（講義）</p> <p>第4週 新学習指導要領とこれからの学校経営管理（講義）</p> <p>第5週 学校経営管理における校長のリーダーシップとマネジメント（講義）</p> <p>第6週 教職員管理とその課題Ⅰ 人事評価（講義・討議）</p> <p>第7週 教職員管理とその課題Ⅱ 研究研修（講義・討議）</p> <p>第8週 教育課程管理とその課題（講義・討議）</p> <p>第9週 施設・設備管理とその課題（講義・討議）</p> <p>第10週 特色ある学校における学校経営管理（見学）</p> <p>第11週 訪問校の学校経営管理（発表・討議）</p> <p>第12週 学校課題の把握と改善についての手法（講義）</p> <p>第13週 学校改善・改革の事例研究Ⅰ（講義・討議）</p> <p>第14週 学校改善・改革の事例研究Ⅱ（講義・討議）</p> <p>第15週 これからの学校経営管理と学校改善・改革についての提案（発表・評価）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	（準備）学校経営管理や今日の教育課題に関わる資料収集を行う。 （発展学習）講義展開に応じて課題レポートを課す。
成績評価	課題提出40% 討議・発表30% 受講状況30%
教科書	自作資料を配布し、特に指定しない。
備考	学校等への訪問日時は、別途調整のうえ決定する。

科目名	教育社会学特論
単位数	2単位
担当教員	望月重信
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	教育をめぐる問題は現代社会の焦点の一つである。その分析の方法を学ぶ（エスノグラフィ、言説研究など）。また今日の教育改革の流れを追いながらその教育問題に対して教育社会学はどう応えるかを考える。教育社会、主に〈子ども・学校・家庭・教師〉を中心に考察する。
到達目標	1、現代社会の教育問題を分析できる。2、教育問題に対して教育社会的想像力と分析と解釈ができるようになる。3、現代社会の教育の構造と文化構造との関連についてマクロ＝ミクロ的に分析できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 教育社会学の領域と方法 【講義】</p> <p>第2週 学校化社会の諸相 【データ解釈と講義】</p> <p>第3週 社会化とアイデンティティ 【講義】</p> <p>第4週 教育と社会の諸問題—教育実践との関り 【講義と討議】</p> <p>第5週 教育機会と学力・階層 【データ解釈と討議】</p> <p>第6週 学校文化とジェンダー 【データ解釈と討議】</p> <p>第7週 青年文化のポストモダン 【データ解釈と討議】</p> <p>第8週 カリキュラムと教科書 【講義】</p> <p>第9週 教育家族としつけの変化 【データ解釈と討議】</p> <p>第10週 情報・消費社会と子ども 【データ解釈と討議】</p> <p>第11週 「逸脱」と「非行」—教育「病理」・臨床 【データ解釈と講義】</p> <p>第12週 欧米・アジア・日本の教育改革 【講義】</p> <p>第13週 生涯教育とキャリア発達 【データ解釈と討議】</p> <p>第14週 子育て・自立支援の課題 【データ解釈と講義】</p> <p>第15週 教育と社会の諸問題—教育問題をとらえる方法 【講義】</p> <p>定期試験等</p>
準備・発展学習	講義関連箇所を把握しておくこと。前時のテーマと課題を整理する
成績評価	講座参加状況50%、ミニレポート20%、出席30%
教科書	とくに使用しない。テーマごとに参考文献を紹介し、資料を配布
備考	社会学への関心をもって臨んでほしい

科目名	現代授業研究Ⅴ群演習（外国語活動（英語））
単位数	2単位
担当教員	田中弘樹
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	小学校における外国語(英語)活動の実践方法を紹介し、研究してゆく。
到達目標	質の高い外国語活動を行えるようになること。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス（外国語活動のあり方）、及び、ショートスピーチ【講義・演習】</p> <p>第2週 小学校での実践研究（5年次）【講義・演習】</p> <p>第3週 小学校での実践研究（6年次）【講義・演習】</p> <p>第4週 歌を活用した教授法（活動例）【講義・演習】</p> <p>第5週 歌を活用した教授法（模擬授業：初級）【講義・演習】</p> <p>第6週 歌を活用した授業法（模擬授業：中、上級）【講義・演習】</p> <p>第7週 ゲームを活用した教授法（活動例）【講義・演習】</p> <p>第8週 ゲームを活用した教授法（模擬授業：初級）【講義・演習】</p> <p>第9週 ゲームを活用した教授法（模擬授業：中、上級）【講義・演習】</p> <p>第10週 絵本を活用した教授法（活動例）【講義・演習】</p> <p>第11週 絵本を活用した教授法（模擬授業：初級）【講義・演習】</p> <p>第12週 絵本を活用した教授法（模擬授業：中、上級）【講義・演習】</p> <p>第13週 チャンツを活用した教授法（活動例）【講義・演習】</p> <p>第14週 チャンツを活用した教授法（模擬授業：初級）【講義・演習】</p> <p>第15週 チャンツを活用した教授法（模擬授業：中、上級）【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	「小学校学習指導要領 外国語活動編」に目を通しておくこと。
成績評価	課題提出50% 発表・実践50%
教科書	教科書なし
備考	音声付の電子英語辞書を持参すること。

科目名	小学校英語演習
単位数	2単位
担当教員	桐生直幸
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	1年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	本講義では、外国語活動の理念や指導法を理解するとともに、第二言語習得論（臨界期、気づき、フィードバックなど）について学ぶ。また、国内外の文献購読を行いながら、様々な研究手法や統計分析法について理解を深める。
到達目標	1. 外国語活動の理念を理解し、プロジェクト型外国語活動に基づいた年間指導計画や学習指導案が作成できる。 2. 英語教育や第二言語習得研究について理解を深め、研究計画の作成や調査結果のまとめができる。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス：学習指導要領と外国語活動の目標【講義】</p> <p>第2週 海外の初等外国語教育、早期英語教育と臨界期・敏感期【講義】</p> <p>第3週 第二言語習得の認知プロセス（インプットへの気づき）【講義】</p> <p>第4週 コミュニケーション能力とフィードバック【講義】</p> <p>第5週 プロジェクト型外国語活動の理念と課題解決型活動【講義】</p> <p>第6週 プロジェクト型外国語活動における教材研究【講義・演習】</p> <p>第7週 歌・ゲームの活用、絵本の読み聞かせ【講義・演習】</p> <p>第8週 外国語活動の観点別評価と評価方法【講義】</p> <p>第9週 プロジェクト型外国語活動に基づいた学習指導案の作成【講義・演習】</p> <p>第10週 内容的なまとまりのある年間指導計画の作成【講義・演習】</p> <p>第11週 研究計画の作成、量的研究と質的研究【講義】</p> <p>第12週 データ収集と記述統計、分散分析【講義・演習】</p> <p>第13週 データのまとめと解釈【講義・演習】</p> <p>第14週 調査報告書の作成【演習】</p> <p>第15週 まとめと全体討議【討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』に目を通しておくこと。 教科書や関連した専門書の内容を復習し、理解を深めること。
成績評価	課題提出 70%、受講状況 30%
教科書	東野裕子・高島英幸『プロジェクト型外国語活動の展開―児童が主体となる課題解決型授業と評価―』高陵社書店、2011
備考	

科目名	現代授業研究Ⅰ群演習（国語・社会）
単位数	2単位
担当教員	松永立志・横山吉雄
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	国語科や社会科に関する基本理念や指導のあり方を実証的に学び、今日的課題や新しい指導方法等について実践的に理解する。また、教材開発や学習過程、指導と評価の一体化等をめざした授業づくりや授業研究のあり方・今後の進め方等について演習形式で学ぶ。
到達目標	1. 国語科や社会科の理念や指導法について考察し、論じることができるようになる。 2. 指導と評価・授業分析の実際等を実証的・実践的に論じることができるようになる。 3. 学校の実態に即した実証的な研究方法を示すことができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 国語科及び社会科の授業とは【講義・演習】</p> <p>第2週 国語教師のあり方について【購読】</p> <p>第3週 国語科の実践研究について【講読】</p> <p>第4週 授業の実際についてⅠ【ビデオ視聴、講義】</p> <p>第5週 授業の実際についてⅡ【ビデオ視聴、講義】</p> <p>第6週 授業分析のあり方について【ビデオ視聴、講義】</p> <p>第7週 これからの授業研究の進め方について【講義、レポート】</p> <p>第8週 新しい教材開発と実践方法について【演習】</p> <p>第9週 学校教育の現状と社会科教育の役割について【講義、討議】</p> <p>第10週 社会科教育の変遷及び現状と課題について【講義、討議】</p> <p>第11週 社会科の授業づくり1 問い直しを迫る問題解決的な学習【講義、演習】</p> <p>第12週 社会科の授業づくり2 ものの見方や考え方をみがき合う学習【ビデオ視聴、協議】</p> <p>第13週 社会科授業分析の実際【講義、演習】</p> <p>第14週 社会科地域学習と教材開発【見学、資料収集】</p> <p>第15週 新しい教育課題と社会科学習【講義、演習、レポート】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	3年次受講の国語科・社会科教育法の発展・応用研究となるので復習をしておく。
成績評価	課題提出60%、発表20%、受講状況20%
教科書	授業の必要に応じて参考資料を配付する
備考	教育ボランティアや教育実習での直接体験、研究書やビデオによる間接体験に基づく実践的な研究ともなるので、体験記録や議事録等を持参する。

科目名	幼児教育学演習
単位数	2単位
担当教員	小泉裕子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修、○臨床発達心理士受験
授業概要	この授業では幼児教育の実践フィールドにある重要課題を研究する。課題のテーマは、「幼稚園と子育て支援・保護者支援」「幼保小連携」「幼児期の知的教育と協同的学び」「保育者のアイデンティティ」「保育者研修」等を設定し、これらの課題に対する保育者のあり方、役割について研究する。
到達目標	授業を通し実際の幼稚園教諭が社会的に期待される役割を十分に理解し、レポートを作成する中で、その領域に於ける自らの課題を明らかにすることを、到達目標とする。
授業内容・方法	<p>第1週 「幼稚園と子育て支援・保護者支援」-相談援助の内容と方法の具体【講義】</p> <p>第2週 「幼稚園と子育て支援・保護者支援」-未就園児クラスの実態【講義】</p> <p>第3週 「幼稚園と子育て支援」に関する課題を整理し、レポートを発表する。【演習】</p> <p>第4週 「幼保小連携」-幼保小連携課題としての教員間の連携【講義】</p> <p>第5週 「幼保小連携」-幼保小連携の課題-子ども同士の交流【講義】</p> <p>第6週 「幼保小連携」に関する課題を整理し、レポートを発表する。【演習】</p> <p>第7週 「幼児期の知的教育と共同的学び」-教材絵本から【講義】</p> <p>第8週 「幼児期の知的教育と協同的学び」-協同的遊びから【講義】</p> <p>第9週 「幼児期の知的教育と協同的学び」に関する課題を整理しレポートを発表する。【演習】</p> <p>第10週 「保育者のアイデンティティ」-成長プロセスの理解【講義】</p> <p>第11週 「保育者のアイデンティティ」-同僚性との関連【講義】</p> <p>第12週 「保育者のアイデンティティ」に関する課題を整理し、レポートを作成する。【演習】</p> <p>第13週 「保育者研修」-園外研修を通して【講義】</p> <p>第14週 「保育者研修」-園内研修を通して【講義】</p> <p>第15週 「保育者研修」に関する課題を整理し、レポートを作成する。【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	関連領域の学会発表論文を購読しておくことが望ましい。
成績評価	授業内評価を実施する。課題提出 50%、受講態度20%、発表・演習 30%
教科書	授業中、適宜紹介する。
備考	この授業はDP科目「育児」の7-1～7-4を含む。

科目名	表現文化研究演習 I (音楽)
単位数	2単位
担当教員	大田 櫻子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修
授業概要	音楽における表現文化について演習授業を通して研究する。日本のみならず、異文化の音楽の比較、分析を行い、様々なジャンルの音楽表現を教育現場で活用できるよう考察する。
到達目標	1、音楽の成り立ちや歴史的背景を理解し、広い視野で音楽表現を深めることができるようになる。2、自らが実践することにより音楽表現の素晴らしさを感じ、習得できるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 表現文化研究における音楽表現とは (ディスカッション)</p> <p>第2週 西洋音楽における表現文化の変遷</p> <p>第3週 クラシック音楽と現代音楽の考察</p> <p>第4週 異文化民族の音楽表現文化研究 1 (アジア・アフリカ)</p> <p>第5週 異文化民族の音楽表現文化研究 2 (中近東・南米)</p> <p>第6週 日本音楽の表現文化研究 (雅楽、邦楽)</p> <p>第7週 日本楽器による音楽表現 (和楽器) 演習</p> <p>第8週 声による音楽表現 (歌、祈り) 解説と演習</p> <p>第9週 声による音楽表現 (合唱、児童発声法) 解説と演習</p> <p>第10週 舞台音楽による表現文化研究 (オペラ、ミュージカル)</p> <p>第11週 楽器による音楽表現 (管楽器, 弦楽器, 打楽器) 演習</p> <p>第12週 身体による音楽表現文化研究と演習 (舞踏)</p> <p>第13週 身体による音楽表現の演習 (ボディーパーカッション)</p> <p>第14週 自作の音楽表現を考える (作曲)</p> <p>第15週 音楽表現 (任意の選択) の発表、講評、ディスカッション、まとめ</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	楽器の演習前後は必ず練習をしておくこと。15回目の発表に向けて準備をしておくこと。
成績評価	受講状況60%、課題提出20%、実技発表20%
教科書	適宜、資料・プリントを配布する。
備考	

科目名	表現文化研究演習Ⅱ（図工）
単位数	2単位
担当教員	藤岡孝充
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修，○幼稚園専修
授業概要	幼児の造形活動における表現は，専門的な表現活動と区別されるが，目に見えない世界を他者が関知することのできる世界に移そうとする行為であることに変わりはない。この授業では，基礎造形的な課題を通して現代アートと幼児の造形活動における表現の共通性や類似性を見出し，造形言語（非言語）による伝達についての考察を行う。
到達目標	1. 美術の表現活動や作品における「伝えたいこと」と「伝わること」の違いを意識しながら制作を進めることができる。 2. 子どもの造形表現に興味をもち，多面的に子どもの造形行為を見ることができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 造形言語とは何か【講義】</p> <p>第2週 絵画① 素描（1）観察 - 見ているもの・見ていないもの【制作】</p> <p>第3週 絵画② 素描（2）空気の表現 - 見えないものの視覚化【制作】</p> <p>第4週 絵画③ 素描（3）不完全の不快と未完成の魅力【制作】</p> <p>第5週 絵画④ ペインティングとは何か - 「色」という要素に注目して【制作】</p> <p>第6週 絵画⑤ 色の世界，色のしくみ - 光をとらえようとした印象派の色【制作】</p> <p>第7週 絵画⑥ 色を塗る，色で描く - 色と心の動き【制作】</p> <p>第8週 彫刻① 塊の形 - 型による複製（1）【制作】</p> <p>第9週 彫刻② 塊の形 - 型による複製（2）【制作】</p> <p>第10週 彫刻③ 塊の表情 - 視覚的質感の表現（1）【制作】</p> <p>第11週 彫刻④ 塊の表情 - 視覚的質感の表現（2）【制作】</p> <p>第12週 彫刻⑤ 塊の表情 - 視覚的質感の表現（3）【制作】</p> <p>第13週 ものと行為の表現① 造形遊びとインスタレーション（1）【制作】</p> <p>第14週 ものと行為の表現② 造形遊びとインスタレーション（2）【制作】</p> <p>第15週 多様化する美術表現と子どもの造形表現【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	現代美術や幼児造形教育に関する書籍を最低各1冊は読んで理解を深めておいてほしい。
成績評価	成果物提出（60%），受講状況（40%）で評価する。
教科書	指定なし。必要な資料は適宜プリント等で配布する。
備考	制作に必要な用具・材料あり。前週の授業時に指示する。

科目名	発達心理学特論
単位数	2単位
担当教員	越智幸一
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修, ○学校心理士受験, ○臨床発達心理士受験
授業概要	本講義では、乳幼児期から青年期までの乳児、幼児、児童、青年を対象とした発達に関する研究論文を取り上げ、「学校教育の基盤としての発達心理学」、「認知・思考の発達」、「自己意識の発達」、「社会性の発達」、「言語の発達」についての理解を深める。
到達目標	1. 幼児期・児童期の子どもの発達をさまざまな視点から捉えて理解できる。2. 幼児期・児童期の子どもの発達を踏まえ、青年期の子どもの発達を捉えることができる。3. 生涯発達心理学の視点から、乳幼児期から青年期までの子どもの発達を理解できる。
授業内容・方法	<p>第1週 オリエンテーション、発達心理学とは 【講義】</p> <p>第2週 幼児教育の基盤としての発達心理学と発達支援の実態【講義・DVD教材】</p> <p>第3週 学校教育の基盤としての発達心理学とそれぞれの事例の臨床的意味【講義】</p> <p>第4週 認知・思考の発達（1）【講義】</p> <p>第5週 認知・思考の発達（2）【講義】</p> <p>第6週 自己意識の発達（1）【講義】</p> <p>第7週 自己意識の発達（2）【講義】</p> <p>第8週 社会性の発達（1）【講義】</p> <p>第9週 社会性の発達（2）【講義】</p> <p>第10週 言語の発達（1）【講義】</p> <p>第11週 言語の発達（2）【講義】</p> <p>第12週 発達心理学における研究法（1）【講義】</p> <p>第13週 発達心理学における研究法（2）【講義】</p> <p>第14週 生涯発達における子どもを取り巻く環境（1）【講義】</p> <p>第15週 生涯発達における子どもを取り巻く環境（2）【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に研究論文をよく読み、分からない専門用語は辞書等で意味を調べておくこと。
成績評価	課題提出 80% 受講態度 20%
教科書	教科書は指定せず、授業中に研究論文等の資料を配付する。
備考	この授業はDP科目「基礎」の1-1～1-4、及び「認知」の1-1～1-4を含む。

科目名	子ども発達教育臨床Ⅱ（音楽ムーブメント）
単位数	2単位
担当教員	飯村敦子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ○臨床発達心理士受験, ◎ムーブメント上級指導者
授業概要	この科目では、音楽や音の持つ機能や特性を理解し、ムーブメント教育・療法の環境として、これらを意図的に活用した音楽ムーブメントの実際を学ぶと共に、子どもの認知発達と音楽ムーブメントの関連について検討する。
到達目標	1. 音楽や音の持つ特性を理解し、音楽ムーブメントを展開することができる。 2. 音楽ムーブメントを展開する支援者としての感性を高め、自己を表現することができるようになる。
授業内容・方法	<p>第1週 ムーブメント教育・療法における環境の考え方（実技を含む）</p> <p>第2週 子どもの発達の流れ（感覚・知覚・高次認知）と音楽ムーブメント</p> <p>第3週 感覚運動ムーブメントにおける音楽の活用</p> <p>第4週 基本的な動きとリズムの関係（演習）</p> <p>第5週 動きを援助するための音楽ムーブメントの実際（演習）</p> <p>第6週 発達の基盤となる身体意識とは</p> <p>第7週 身体意識を育てる音楽ムーブメントの実際（演習）</p> <p>第8週 知覚運動ムーブメントにおける音楽の活用</p> <p>第9週 知覚運動ムーブメントにおける音楽ムーブメントの実際（演習）</p> <p>第10週 精神運動ムーブメントにおける音楽の活用</p> <p>第11週 精神運動ムーブメントにおける音楽ムーブメントの実際（演習）</p> <p>第12週 コミュニケーションを育む音楽の活用（演習）</p> <p>第13週 認知発達を支援する音楽の活用（演習）</p> <p>第14週 遊具と音楽の活用方法を考える（グループワーク）</p> <p>第15週 音楽ムーブメントの展開（グループワーク）</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない。</p>
準備・発展学習	各回、事前に提示した資料、あるいは教科書を読んでおくこと。
成績評価	課題提出 40%、実技（グループワークと発表）30%、受講状況 30%
教科書	音楽・遊具を活用した自立活動 小林芳文・飯村敦子編著（明治図書）
備考	この授業はDP科目「認知」の3-6、3-7を含む。

科目名	学校カウンセリング演習
単位数	2単位
担当教員	伊藤嘉奈子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○学校心理士受験
授業概要	学校生活における児童・生徒の発達援助を目的とする理論と実践について学ぶ。実際に実習をしながら、カウンセリングの技法を学校現場に活かす方法を学ぶ。さらに、コンサルテーションやコーディネーションについて学び、実践上の問題と課題について理解し、ケース検討する。
到達目標	①様々なカウンセリング技法を演習を通して理解し、実践的対応力を習得できる ②教師・家庭・地域・他機関との連携のあり方について説明でき、コンサルテーションやコーディネーションの技法を習得できる
授業内容・方法	<p>第1週 学校教育と学校カウンセリング【講義】</p> <p>第2週 学校カウンセリングの特徴、コンサルテーション【講義】</p> <p>第3週 実習① 傾聴実習【講義・実習】</p> <p>第4週 実習② 児童生徒へのカウンセリング、カウンセリング・プロセスの検討【発表・実習】</p> <p>第5週 実習③ 親へのカウンセリング、カウンセリング・プロセスの検討【発表・実習】</p> <p>第6週 実習④ 構成的グループエンカウンター【発表・実習】</p> <p>第7週 実習⑤ アサーショントレーニング【発表・実習】</p> <p>第8週 実習⑥ ソーシャルスキルトレーニング【発表・実習】</p> <p>第9週 コンサルテーション【講義】</p> <p>第10週 実習⑦ コンサルテーション【発表・実習】</p> <p>第11週 コーディネーション【講義】</p> <p>第12週 実習⑧ コーディネーション【発表・実習】</p> <p>第13週 実習⑨ コンサルテーション、コーディネーションの実践上の諸問題と課題【実習】</p> <p>第14週 実習⑩ カウンセリング過程における自己評価【実習】</p> <p>第15週 学校カウンセリング・コンサルテーションの実践上の諸問題【講義・ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に論文を配布するので、よく読み把握しておくこと。授業終了時に提示する復習課題を、指定期限までに提出すること。
成績評価	発表・実践60%、課題提出40%
教科書	教科書なし
備考	

科目名	現代授業研究Ⅳ群演習（道徳・総合的な学習の時間・特別活動）
単位数	2単位
担当教員	山崎久男・中島朋紀
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	道徳・総合的な学習の時間・特別活動について学校教育の実践上の成果と課題を明らかにするとともに、課題解決の方向性を検討する。学校教育全般にわたる各領域の内容について専門的な分析・考察を行い、全人教育・生活教育の視点から授業研究と教育実践を推進する指導力を身につける。
到達目標	1. 学校教育のカリキュラムにおける各領域の位置づけや教育的価値を理解し、その可能性と課題について論じる。 2. 各領域独自の目標、内容、方法に即した実践的指導力を形成する。
授業内容・方法	<p>第1週 学校教育における理論と実践について【講義】</p> <p>第2週 道徳の時間の実践と課題1：道徳の目標、内容、方法【講義】</p> <p>第3週 道徳の時間の実践と課題2：道徳授業と教師の役割【講読】</p> <p>第4週 総合的な学習の時間の実践と課題1：理念と目標、内容、方法【講義】</p> <p>第5週 総合的な学習の時間の実践と課題2：実践事例の検討と教師の役割【事例検討】</p> <p>第6週 特別活動の実践と課題1：特別活動の目標、内容、方法【講義】</p> <p>第7週 特別活動の実践と課題2：学級経営と教師の役割【事例検討】</p> <p>第8週 研究紀要、授業記録を基にした指導方法の課題設定【講読】</p> <p>第9週 研究紀要、授業記録を基にした指導方法の分析【講読】</p> <p>第10週 授業の目標及び指導方法の研究【協議】</p> <p>第11週 実践的指導方法を目的にした授業構想【協議】</p> <p>第12週 学習指導案の検討及び模擬授業【実践演習】</p> <p>第13週 授業の実践と整理【討議・講評】</p> <p>第14週 指導方法及び授業改善のまとめ【講義】</p> <p>第15週 教育活動の創造的実践【講義】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に関する文献・資料の講読及び授業実践から研究活動を行う。 ・関係の文献にとどまらず広く読書し、広い見識を身につけるよう努める。
成績評価	受講状況30%、課題提出40%、実践演習30%
教科書	テキストは使用せず、必要に応じて参考文献・資料・プリントを配布。
備考	学校教育全般にわたる各領域の目指す実践的な理論や方法論の構築、教育現場で求められる指導力を学ぶ。

科目名	表現文化研究演習Ⅴ（英語コミュニケーション演習）
単位数	2単位
担当教員	田中弘樹
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修
授業概要	日常的な英語コミュニケーションで使われる様々な表現を紹介し、それらの実際の発音方法や聴き取りのポイントを教授する。
到達目標	英語指導者として必要な「発音・聴き取り」能力を身に付けること。
授業内容・方法	<p>第1週 ガイダンス（英語指導者の英語力）、及び、ショートスピーチ【講義・演習】</p> <p>第2週 英語のリズムと日本語のリズム【演習】</p> <p>第3週 イントネーションの働き【演習】</p> <p>第4週 リンキング（連結）【演習】</p> <p>第5週 まとめ（アクセント・リズム、イントネーション）とテスト（リンキング）【講義】</p> <p>第6週 アシミレーション（同化）【演習】</p> <p>第7週 コントラクション（短縮）【演習】</p> <p>第8週 プロローブ（破裂音）【演習】</p> <p>第9週 まとめ（同化、短縮、破裂音）とテスト（破裂音）【講義】</p> <p>第10週 脱落【演習】</p> <p>第11週 子音連続【演習】</p> <p>第12週 注意すべき母音と子音【演習】</p> <p>第13週 まとめ（音節構造）とテスト（子音連続）【講義】</p> <p>第14週 英語の歌をエレガントに歌うための発音講座：ポップス【演習】</p> <p>第15週 英語の歌をエレガントに歌うための発音講座：ミュージカル【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	各章の解説文を読んでおくこと。授業後にテキストのドリルを充分に行うこと。
成績評価	テスト50% 実践・発表50%
教科書	『英語の発音パーフェクト学習事典』深澤俊昭、アルク
備考	音声付の電子英語辞書を持参すること。

科目名	乳児保育学演習
単位数	2単位
担当教員	寶川雅子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修
授業概要	乳児を取り巻く環境が変化を続けている現状である。そのような状況の中、育とうとしている乳児の生活にとって望ましい人的環境や生活環境について、複数の研究者の理論と照らし合わせつつ、適宜映像などを活用しながら探究していく。
到達目標	乳児の姿を、複数の理論と関連付けて考えることができるようになるとともに、それらの理論をもとにして、乳児の姿から乳児の感情を理解する術を習得する。
授業内容・方法	<p>第1週 経験に基づいた乳児理解【演習】</p> <p>第2週 日本における乳児保育の歴史の変遷と、乳児保育の現状と課題【演習】</p> <p>第3週 乳児保育をFreud, S. の理論から考察する【演習】</p> <p>第4週 乳児保育をKlein, M. の理論から考察する【演習】</p> <p>第5週 乳児保育をBowlby, J. の理論から考察する【演習】</p> <p>第6週 乳児保育をSpitz, R. の理論から考察する【演習】</p> <p>第7週 乳児保育をAinsworth, M. の理論から考察する【演習】</p> <p>第8週 乳児保育をMahler, M, S. の理論から考察する【演習】</p> <p>第9週 乳児保育をWinnicott, D, W. の理論から考察する【演習】</p> <p>第10週 乳児保育をStern, D, N. の理論から考察する【演習】</p> <p>第11週 乳児を理解する視点①（乳児院の映像をもとにして）【演習】</p> <p>第12週 乳児を理解する視点②（里親との生活の映像をもとにして）【演習】</p> <p>第13週 乳児を理解する視点③（小児科病棟における映像をもとにして）【演習】</p> <p>第14週 乳児と育児不安【演習】</p> <p>第15週 乳児を理解するためのポイント【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	乳児における基本的情報を把握しておくこと。授業で紹介する文献に目をとったり、関連文献を検索し理解を深めること。
成績評価	受講状況（40%）、課題提出（30%）、発表（30%）
教科書	なし
備考	適宜資料を配布

科目名	実践保育演習
単位数	2単位
担当教員	小泉裕子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修
授業概要	保育者の高度な専門性として、実践から得られた知識（実践知）を基に、フィールドにある様々な問題に対応する能力、未来を切り開き保育を構想する力等が求められている現在である。授業では、歴史に見る偉大な保育者達の歩んできた成果を学び、受講生自らの「保育への問い」を投げかけていく。
到達目標	1. 就学前教育にある現代の課題を明らかにする。 2. 受講生自身にある幼年教育者としてのアイデンティティを追求し、自己課題を明らかにする。
授業内容・方法	<p>第1週 「就学前教育の課題(幼稚園教師への道)」【演習】</p> <p>第2週 「教育のナショナルスタンダードとローカル性」【演習】</p> <p>第3週 「家庭教育と学校教育」【演習】</p> <p>第4週 「女性教師(平田のぶ)」【演習】</p> <p>第5週 「女性教師(池田小菊)」【演習】</p> <p>第6週 「女性教師(平野婦美子)」【演習】</p> <p>第7週 「就学前教育の意義と醍醐味」【演習】</p> <p>第8週 「就学前教育の構造化への問い」【演習】</p> <p>第9週 「就学前教育の内容と方法論への問い」【演習】</p> <p>第10週 「教師のライフワーク」【演習】</p> <p>第11週 「幼年教育者の現代的課題1(女性たちと子どもたち)」【演習】</p> <p>第12週 「幼年教育者の現代的課題2(幼年教育における教育とケア)」【演習】</p> <p>第13週 「幼年教育者の現代的課題3(保育の専門性)」【演習】</p> <p>第14週 「就学前教育と保育者の課題(レポート作成)」【演習】</p> <p>第15週 「就学前教育と保育者の課題(プレゼンテーション・質疑応答)」【演習】</p> <p>定期試験等 実施しない</p>
準備・発展学習	「児童学フィールド研究」の成果をまとめ、自己課題を明らかにしておくこと。
成績評価	課題レポート 50%、受講態度 50%
教科書	「幼年教育者への問い」, 青木久子・浅井幸子著、萌文書林、2007
備考	

科目名	小児保健学演習
単位数	2単位
担当教員	木下博勝
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○特別支援専修
授業概要	いわゆるゼミナール形式（毎回のテーマについて担当者がPC等で発表し、参加者全員で質疑応答等）で行う。
到達目標	緊急時の対応・病気や事故から子供を守る全てについて具体的に述べ説明する。
授業内容・方法	<p>第1週 総論 救急蘇生(講義、解説)</p> <p>第2週 救急処置1 創傷 止血(発表、ディスカッション)</p> <p>第3週 救急処置2 打撲 捻挫 脱臼 骨折(発表、ディスカッション)</p> <p>第4週 救急処置3 熱傷(発表、ディスカッション)</p> <p>第5週 救急処置4 熱中症(発表、ディスカッション)</p> <p>第6週 救急処置5 意識障害 けいれん(発表、ディスカッション)</p> <p>第7週 食中毒とその予防対策(発表、ディスカッション)</p> <p>第8週 感染症概論(発表、ディスカッション)</p> <p>第9週 感染症 年齢 季節 対策(発表、ディスカッション)</p> <p>第10週 肥満と生活習慣(発表、ディスカッション)</p> <p>第11週 小児が訴える症状と看護(発表、ディスカッション)</p> <p>第12週 虐待の発見と対応(発表、ディスカッション)</p> <p>第13週 事故防止と安全・危機管理(発表、ディスカッション)</p> <p>第14週 職場における保育者の健康管理(発表、ディスカッション)</p> <p>第15週 現場での実際(発表、ディスカッション)</p> <p>定期試験等 実施しない</p>
準備・発展学習	授業内容に則した成書や文献を、図書館等で予め各自で調べ通読し理解しておく。
成績評価	受講状況20%、課題提出物10%、発表70%
教科書	教科書は指定しない。
備考	発表60分、質疑応答30分の目安で予定。

科目名	表現文化研究演習Ⅲ（体育）
単位数	2単位
担当教員	松田広則
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○幼稚園専修
授業概要	子どもらしい自己の存在を表現する活動としての遊びや運動は、「からだ」と「こころ」の発育発達に大切で必要である。子どもが運動を継続するためには運動を楽しんでいる必要があり、そのために上手に身体を操ることができるように指導する方法を考えていく。実技を通して運動動作の特性を理解し、動作の観察をおこないながら調べていく。
到達目標	1. さまざまな運動やあそびを理解し、効率的な運動動作ができるようになる 2. 能力に応じた指導方法を考えることができるようになる
授業内容・方法	<p>第1週 体育実技実施に関する注意事項の説明、体ほぐし運動と力試しの運動【実技】</p> <p>第2週 用具を操作する運動（ラケット型運動でのラケット操作による打球方向の理解）【実技】</p> <p>第3週 用具を操作する運動のビデオを用いた指導法研究（ラケットの操作、打点調整）【演習】</p> <p>第4週 用具を操作する運動の工夫（ラケット型運動のゲームをより楽しむ工夫）【実技・発表】</p> <p>第5週 鉄棒運動の基本動作と特性の理解、指導法の研究（渡る、前回り、逆上がり等）【演習】</p> <p>第6週 マット運動の基本動作と特性の理解、指導法の研究（前転、後転等）【演習】</p> <p>第7週 跳び箱運動の基本動作と特性の理解、指導法の研究（開脚跳び、閉脚跳び等）【演習】</p> <p>第8週 ベースボール型のボール運動の基礎と特性の理解（投げる動作、打つ動作）【実技】</p> <p>第9週 ベースボール型のボール運動のビデオを用いた指導法研究（投動作、打つ動作）【演習】</p> <p>第10週 ネット型運動の基礎と特性の理解（ソフトバレーでのパス、アタック）【実技】</p> <p>第11週 ネット型運動のビデオを用いた指導法研究（三段攻撃、ゲーム運営）【演習】</p> <p>第12週 縄運動の基礎と特性の理解（縄を使った遊び、跳び越える運動、長・短縄跳び）【実技】</p> <p>第13週 縄運動の指導法研究（縄を使った遊び、段階的な長縄跳びの方法、短縄跳び）【発表】</p> <p>第14週 陸上運動の基礎と特性の理解（鬼あそび、走り方、かけっこ、リレー）【演習】</p> <p>第15週 陸上運動の指導法研究（速く走るフォーム、楽しめるリレーや鬼あそびの工夫）【演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	体育種目や運動あそびの特性について事前に調べ、理解しておくこと。技術について理解したことを資料などで確認し文としてまとめておくこと。
成績評価	発表 40%、実技 30%、課題提出 20%、受講状況 10%
教科書	必要に応じ配付資料を使用する
備考	アリーナ用シューズと運動着を準備すること。

科目名	表現文化研究演習Ⅳ（総合表現）
単位数	2単位
担当教員	杉本裕子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○幼稚園専修
授業概要	人間の表現文化の多様な展開を概観し、表現が生成される過程の検討を通し、子どもの表現の独自性や根源性を考察する。豊かな表現文化の創造にむけて保育や教育の現場で実践できることは何かを考える。
到達目標	①表現文化について子どもの視点から知見を深める。 ②子どもの表現を見つけ、読み取り、解釈し、子どもへのかかわりに生かすことができる。
授業内容・方法	<p>第1週 人間の表現文化概論【講義と討議】</p> <p>第2週 人間の表現文化各論【講義と討議】</p> <p>第3週 レポート発表と討議①</p> <p>第4週 レポート発表と討議②</p> <p>第5週 子どもという視点【講義と討議】</p> <p>第6週 子どもの行為と表現【講義と討議】</p> <p>第7週 子どもの言葉と表現【講義と討議】</p> <p>第8週 子どもの身体と表現【講義と討議】</p> <p>第9週 レポート発表と討議③</p> <p>第10週 保育・教育の現場における表現文化①日常【講義と討議】</p> <p>第11週 保育・教育の現場における表現文化②非日常【講義と討議】</p> <p>第12週 保育・教育の現場における表現文化③保育者の表現【講義と討議】</p> <p>第13週 レポート発表と討議④</p> <p>第14週 表現文化創造のために保育・教育は何ができるか【講義と討議】</p> <p>第15週 表現の先にあるものは何か【討議】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施しない</p>
準備・発展学習	講義中に提示する参考文献や論文を読んでおいてください
成績評価	発表40%、課題提出30%、受講状況30%、
教科書	なし
備考	

科目名	子育て支援特論
単位数	2単位
担当教員	松橋圭子
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○臨床発達心理士受験
授業概要	近年の子育て環境をめぐる状況の変化により、子育て支援の重要性が社会的に認められてきている。幼稚園、保育所における子育て支援サービスや地域における子育て支援の実践例を把握し、わが国の子育て支援の意義とそのあり方について考えていく。
到達目標	1.子どもを取り巻く状況を把握できる。2.わが国の子育て支援の変遷を把握できる。3.海外の子育て支援状況を把握できる。4.わが国の子育て支援の現状と問題点を整理し、今後の展望について説明できる。
授業内容・方法	<p>第1週 子育て支援の意義</p> <p>第2週 地域・家庭における養育機能の低下(講義と討議)</p> <p>第3週 少子化の進行</p> <p>第4週 女性就労の増大</p> <p>第5週 子育て支援の変遷①</p> <p>第6週 子育て支援の変遷②</p> <p>第7週 海外における子育て支援(アメリカ・カナダ)(講義と発表)</p> <p>第8週 海外における子育て支援(フランス・北欧)(講義と発表)</p> <p>第9週 保育所における子育て支援</p> <p>第10週 幼稚園における子育て支援</p> <p>第11週 子育て支援センターにおける子育て支援</p> <p>第12週 地域における子育て支援</p> <p>第13週 企業における子育て支援</p> <p>第14週 保護者のニーズからみた支援者のあり方</p> <p>第15週 子育て支援の課題と展望(講義と討議)</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	受講者の住んでいる地域の子育て支援の状況について調べておく。
成績評価	受講状況50%、課題提出50%
教科書	教科書は使用しない。授業時に資料を含むレジュメを配布する。
備考	この授業はDP科目「育児」の2-1～2-3、6-1～6-6を含む。

科目名	子育て支援演習
単位数	2単位
担当教員	佐藤康富
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○臨床発達心理士受験
授業概要	近年、児童虐待が社会問題としてクローズアップされているが、その背景には地域も含めた子育て力の弱さがあると指摘されている。子育ては必ずしも家族だけが担うものではなく、社会的視点からも子育てを考えていく必要に迫られている。ここでは子育て支援についてカンファレンスしたり、コンサルテーションすることも学んでいく。
到達目標	1. 虐待の未然防止や少子化対策の観点から、子育て支援とは何かを理解する。 2. 実際の子育て支援について理解し、具体的な方策を策定できるようにする。
授業内容・方法	<p>第1週 子育てとは【講義】</p> <p>第2週 親子関係を学ぶ【講義】</p> <p>第3週 なぜ、今子育て支援か【講義】</p> <p>第4週 子育て支援の現状【講義】</p> <p>第5週 他国の子育て支援の動向【講義】</p> <p>第6週 子育て支援の実際（グループ討議）【講義・演習】</p> <p>第7週 子育て支援センター等の実際（ビデオ視聴とグループ討議）【講義・演習】</p> <p>第8週 子育て支援センター等の活用（ビデオ視聴とグループ討議）【講義・演習】</p> <p>第9週 地域で子育てを支援する（コンサルテーション）【講義・演習】</p> <p>第10週 子育て支援のネットワーク（カンファレンス）【講義・演習】</p> <p>第11週 我が国の子育て支援の動向【講義】</p> <p>第12週 虐待と子育て支援（ビデオ視聴とグループ討議）【講義・演習】</p> <p>第13週 虐待を未然に防ぐ子育て支援（グループ討議）【講義・演習】</p> <p>第14週 研究課題発表①【講義・演習】</p> <p>第15週 研究課題発表②【講義・演習】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	事前に子育て支援施設の見学をしておくことが望ましい。
成績評価	受講状況 30%、発表・演習 30%、課題提出40%
教科書	適宜プリント・資料を配布する
備考	参考文献を授業中に提示する。 この授業はDP科目「育児」の5—1～5—3を含む。

科目名	子ども心理療法演習
単位数	2単位
担当教員	青木万里
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋セメスター
免許・資格課程との対応	○特別支援専修
授業概要	子どもを対象とした心理療法の基礎理論および援助方法について理解し、将来現場で活用できることを目標に演習形式で行う。
到達目標	1. 子どもの心の問題に対応できる力を身につける。 2. 現場で特別支援教育に携わるために必要な知識や態度を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 子どもの心理療法とは【ふりかえりと講義】</p> <p>第2週 子どもの心理療法アセスメント(1)【講義】</p> <p>第3週 子どもの心理療法アセスメント(2)【講義】</p> <p>第4週 乳幼児観察の成り立ちと方法【講義】</p> <p>第5週 乳幼児観察の応用【講義】</p> <p>第6週 保護者の理解と対応【講義】</p> <p>第7週 課題に取り組む【発表・ディスカッション】</p> <p>第8週 発達障害の理解と対応(1)【講義・ディスカッション】</p> <p>第9週 発達障害の理解と対応(2)【講義・ディスカッション】</p> <p>第10週 「プレイ・テクニク」の技法と実際【講義・ディスカッション】</p> <p>第11週 「子どもの心理療法」のケースから【事例検討・ディスカッション】</p> <p>第12週 自由描画を中心としたコンサルテーション【講義・ディスカッション】</p> <p>第13週 物語の分析的考察(1)【講読・ディスカッション】</p> <p>第14週 物語の分析的考察(2)【講読・ディスカッション】</p> <p>第15週 課題を発展させる【発表・ディスカッション】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず</p>
準備・発展学習	授業に意欲的に取り組み、自ら関心のあるテーマについて調べる。
成績評価	発表60%、受講状況40%
教科書	『こどもの精神分析』木部則雄著、岩崎学術出版社
備考	「子ども心理療法特論」を履修していることが望ましい。初回に受講方法について説明する。

科目名	学習指導・進路指導演習
単位数	2単位
担当教員	鈴木樹
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋semester
免許・資格課程との対応	○小学校専修, ○学校心理士受験
授業概要	日本の子どもは「何のために学習するのか」という学習する意義を見失っている。そこで、学習する目的を進路と結びつけ、学ぶ意義、働く意義を見いだす進路指導・学習指導について考察する。なお、本科目は小学校専修免許状および学校心理士資格関連科目の「生徒指導・教育相談・キャリア教育」に対応するので、それらの内容を含む。
到達目標	1. 日本の児童生徒の学力の現状について把握する。2. キャリア教育について理解する。3. 教科の学習を自分の進路と結びつける実践を構想できる。4. 学校心理士として必要とされる「学校心理学的援助の実際」に関する知識・技能を身につける。
授業内容・方法	<p>第1週 学習指導と進路指導、講義の目的・進め方【講義】*</p> <p>第2週 生徒指導とは【講義】*</p> <p>第3週 生徒指導の体制と諸問題【講義】*</p> <p>第4週 教育相談の意義と内容【講義】*</p> <p>第5週 学習指導要領における学習指導・進路指導（道徳・特別活動など）【文献講読】</p> <p>第6週 日本の子どもの学力の現状（学力調査の結果）【ディスカッション】</p> <p>第7週 日本の子どもの学力の問題点【ディスカッション】</p> <p>第8週 若者の職業意識（フリーター、ニート）【資料の講読】</p> <p>第9週 文部科学省のキャリア教育の推進【資料の講読とディスカッション】*</p> <p>第10週 キャリア教育の具体的な展開（キャリアカウンセリングの意義など）【講義】*</p> <p>第11週 キャリア教育の具体的な展開（キャリアカウンセリングの意義など）【講義】*</p> <p>第12週 学習する目的・教科学習と進路との関係・適性と進路選択【事例検討】</p> <p>第13週 実践事例の検討【実践事例の発表】</p> <p>第14週 教科と進路を結びつける実践例を構想する【構想・発表・ディスカッション】</p> <p>第15週 学習することの意味（レリヴァンス, relevance）【文献講読】</p> <p>定期試験等 定期試験は実施せず。</p>
準備・発展学習	文部科学省の資料などを読むこと。実践例の構想では、事前によく考えてから臨むこと。
成績評価	授業内評価（発表・実践50%, 受講状況50%）
教科書	教科書なし。プリントを配付する。
備考	授業内容・方法のうち、学校心理士資格に対応するものには、*を付した。

科目名	子ども発達教育学（ムーブメント教育・療法）演習
単位数	2単位
担当教員	小林芳文
開講学科	児童学研究科児童学専攻
開講学年	2年
開講学期	秋セメスター
免許・資格課程との対応	○特別支援専修, ○臨床発達心理士受験, ◎ムーブメント上級指導者
授業概要	ムーブメント教育・療法の学問が、如何に人間の発達やQOL（生活の豊かさ）に有効であるかについて考察していく。そのために重度から軽度障害の子ども、さらには諸機能発達の関係障害、心理的情動失調への介入などを視座に入れて授業を進める。
到達目標	障害児の療育、支援にとって、ムーブメント教育・療法を活用する事は、どのような意義があるのか、効果があるのか等について発達の、環境的、遊びの側面から具体的実践的に取り組めるようにすることが目的である
授業内容・方法	<p>第1週 はじめに、今、日本の子どもたちの姿は、実態を知る</p> <p>第2週 日本におけるムーブメント教育・療法の概要を理解する</p> <p>第3週 LD/ADHDと神経心理学的問題を理解する</p> <p>第4週 LD/ADHDを巡る行動コントロールを検討する</p> <p>第5週 自閉症とコミュニケーション、情動失調への介入を理解する</p> <p>第6週 ダウン症候群と早期療育支援を理解する</p> <p>第7週 重複障害児と感覚運動、神経学的統合を検討する</p> <p>第8週 重複障害児の発達教育と感覚運動での支援を考える</p> <p>第9週 言語障害児のムーブメント教育・療法の在り方を検討する</p> <p>第10週 特別支援教育での自立活動にムーブメントを活かすを考える</p> <p>第11週 家族支援計画と子育て支援にムーブメントを活かすを考える</p> <p>第12週 ムーブメント教育・療法での情動的介入について考える</p> <p>第13週 環境設定とムーブメント教育・療法、遊具の活用を検討する</p> <p>第14週 環境設定とムーブメント教育・療法、遊具の活用を検討する②</p> <p>第15週 演習を振り返って、関係の障害を検討する</p> <p>定期試験等 中間、およびまとめでのレポート</p>
準備・発展学習	各回、事前に教科書の該当箇所を読んでくる。時に、課題レポートを出す。
成績評価	授業の出席状況50%、発表状況30%、レポート20%などで総合評価する
教科書	小林芳文著；LD児、ADHD児が蘇る身体運動、大修館書店、2001
備考	初回に受講方法、課題について説明する。この授業はDP科目「社会情動」の3-1, 3-2を含む。